



We Serve

友愛



No2

掲げよう

価値ある奉仕とL字の仲間

ライオンズクラブ国際協会 333-C地区 地区ニュース 1994年11月15日発行(1994 - 1995)

C O N T E N T S

友愛No2
1994年～1995年
ライオンズクラブ国際協会
333-C地区 地区ニュース



秋彩に染まる本土寺（松戸市）
撮影：鈴木克洋

3 ルワンダ難民に愛の手を
333-C地区ガバナーL. 江畑耕作

4 ジュゼッペ・グリマルディ 国際会長来日す！

8 LIONS CLUB活動レポート

市川LC・流山LC・船橋ポートLC・上総LC・市原コスモスLC・君津LC・鋸南LC・
千潟LC・旭LC・多古LC・東庄LC・銚子LC・飯岡LC・千葉LC・市原・市原南LC・
市原南LSC・千葉エコーLC

16 クラブ結成20周年記念に寄せて
船橋京葉LC L. 鈴木行正

17 LCIF便り

20 第1回キャビネット会議

22 YE派遣報告[1]

[新しい体験、人との出会いの連続] 江口幸史

[「タウンズビルで暮らした一カ月は夢のよう」青空に青い海、
あたたかい笑顔] 上村健作

[ビクトリア州、マッカーサーに滞在して] 斉藤綾乃

[トラップアルガー、人口2,000人の町] 渡辺有希

[ビクトリア州 Toora] 植木千絵

[つるを折ってのプレゼントに大喜び] 福井英里子

[一日一日が脳裏に焼き、離れない] 春口淳一

[一人での飛行機移動は不安だった] 三品早知子

[「羊育記」パパは恥ずかしがり屋だが、
優しさが伝わってくる人] 高橋淳之

[ドイツ最南部、バイエル地方で] 小川晴功

[ネブラスカ州で素晴らしい体験] 古川美和子

[ネブラスカ州、エルムウッド] 鈴木香葉

[ウイソコンシン州、ワウサウ、あっという間に別れの時が来た] 佐藤紳介

[前日までステイ先がわからず不安だった] 粕谷敏江

[行きたくなかったはずが、第2の故郷に] 川名浩美

[自分を見つめ日本を見つめ直せた] 寺澤和美

[YEプログラムで、視野が大きく変わった] 藤橋咲和子

[ホームステイ先1か所が、少し残念] 神田由香

[たくさんの発見あり、もう一つの世界を知ることができた] 青山深雪

[夏期派遣生レポート] 稲葉公美

[到着したユージーン空港でハプニング、夏の思い出は宝物] 森智佳子

[九州のYE生と二人でステイ] 梅沢花代

[食料配達人JANIS] 伊藤裕美子

37 編集後記

ルワンダ難民に愛の手を

地区ガバナー 江畑 耕作



去る9月10日、グリマルディ国際会長の330、333、334複合地区合同公式訪問が丸の内東京会館で行われ、当地区から柏なの花LCの三役を含む30名が出席しました。国際会長の知性と情熱の溢れるスピーチに、ライオンズクラブの国際社会において果すべき奉仕と責任の重大さを改めて認識させられた次第です。

国際会長は、視力ファーストキャンペーンを成功に導いた日本のライオンの功績に高い評価と賞賛の言葉を述べられ、その資金が盲人福祉のための治療と施設と教育に活用されていることを報告されました。その上で、百万人

を越えるルワンダの難民にも救援の手を差し伸べていただきたいと訴えられました。

ライオンズクラブは、人間が本質的に持っている倫理性即ち愛と知性と社会性のバランスの上に組織された国際奉仕団体で、単一クラブを基本とする地域社会への奉仕活動と、会員相互の親睦と研修のための運営活動が平行して行われております。然し乍ら、この地球上には、ライオンズクラブを結成できない貧困と飢餓と戦争の地帯において、誰からの援助も受けられずに死んでゆく人達が沢山おります。人類の幸福と世界の平和を究極の目的とす

るLC国際協会が、これ等の不幸な人達から目をそむけることは絶対に許されません。現時点でわれわれの出来る援助は、LCIFを通じての援助資金の提供であります。

このたび、LCIFに「ルワンダ救援」口座が設けられましたので、「ルワンダ救援」と用途を指定して送金していただくをお願い申し上げます。尚LCIFでは、用途指定の献金はMJFの対象となりませんので、千ドル以上を献金されてMJFを希望される方は、無指定のMJF申請用紙で送金されることを申し添えておきます。

ジュゼッペ・
グリマルディ
国際会長
来日スピーチ

ジュゼッペ・グリマルディ 国際会長来日す！

公式訪問のためジュゼッペ・グリマルディ国際会長が来日、
9月10日(土曜日)丸の内国際会館9階ローズルームにて
公式訪問と歓迎夕食会が開催されました。
333-C地区からは、L. 江畑耕作ガバナーの他大勢の
地区役員・ライオンズ関係者が列席し、公式訪問が開催されました。
スピーチの内容は次のとおりです。



今、名越国際理事が私のことをご紹介下さいましたが、一つだけはっきりしていることは私は家内よりは年をとっております。私は、私の全家族の中で一番年寄りというわけではありませぬ。というのは、私たちの家族は千百年も続き、また私たちの家族の中には百才を超える者がおりますから。

そして、新堀ガバナーがイタリア語で歓迎の挨拶を述べて下さいましたことは、今日の午後の一時が私たちにあって本当に意義あり、また楽しいものになったということをお礼申し上げたいと思います。このお礼を日本語で申し上げることが出来ないのを非常に残念に思います。私が英語でお話を申し上げることを、ライオンの方々が寛容をもってお受け入れ下

さることと信じておりますし、また飯元会長が通訳をして下さいますから、その意味はお分かり頂けることだと思います。

私はまず第一に、ここにお集りのすべてのライオンの方々お一人ひとりにお礼を申し上げたいと思います。それは、この日本のライオンズの指導者の方々によって組織化され、また非常に熱情的に活動を続けてこられたからであります。

ことに国際理事会の中で名越理事、松原理事が活躍をされていて下さいますが、これは日本の方々の寛容なまた豊かな貢献を現すものとして、いろいろな意味で活動して下さるということ、特に紹介をしてお礼を申し上げたいと思います。この理事の方々

ジュゼッペ・
グリマルディ
国際会長
来日スピーチ

Giuseppe Grimaldi

LIONS CLUB

に加えて、アポインティーとして活躍をしていらっしゃる元国際理事の山口さんと、米島さん、また委員会メンバーの加々尾さんなどがいろいろな意味で貢献をされていて下さいますこと、特に申し上げて皆様に感謝の意を表したいと思うのです。それと共に、この席にかけて国際理事として活躍をされました、篠田さん、相澤さん、加藤さんという方々が、いろいろ国際協会の為に活躍をされたことをも述べたいと思います。そして、小川夫人がここに来ていらっしゃるが、ここにご親切にも出席をして下さいますことを、特に覚えていて感謝したいと思います。

そして、この左側に座っていらっしゃいますガバナーの方々にして何を申し上げたら良いのでしょうか。どうぞ彼らをご覧ください。このガバナーの方々こそ私自身と同じであります。これらのガバナーの方々を抜きにして、私は国際協会の中で何の働きをも出来ないということを確認したいと思います。これらの方々が330,333,334の各地区におけるガバナーとしてご活躍であります。これらの方々のご活躍によって国際協会が支えられています。これらの方々こそ、あなた方を最も良い意味において代表している方々であります。これらの方々こそ私の働き、また私の活動をする腕の大部分を占めているとあって良いでありましょう。どうぞ盛大な拍手をガバナーの方々にして下さい。

そこで、私たちの仲間のライオンの方々、また奥様方、そしてお客様にご挨拶を申し上げます。私はこの皆様とご挨拶を分かちあうことによって、私たちの友情を深めたいと心から願っています。

私たちのこの国際協会が77年の歴史を持っておりませんが、ただその様な歴史を持っているだけでなしに、さらに前進を続けたいというふうに願って活動をしているわけです。今ここに集まっていらっしゃる日本のライオ

ンズの方々、それから世界のライオンズの人々が全世界における倫理性を代表し、これを前進する為の働きを担っていて下さるのであります。あなた方は自分自身を代表しているだけではなしに、あなた方の周囲の人々、また周囲の社会、全世界における働きを、あなた方一人ひとりが代表をしていらっしゃるということを、認識して頂きたいを思います。私たちが全世界に160万ものライオンズがいるわけですが、それらの人々をけっして過小評価してはならない。それらの人々はその地域においてどんな働きをしているかということ、あなた方ご自身から認識をして頂きたいのであります。そしてあなた方一人ひとりが、実はライオンズの全メンバーの100%の代表として存在をしているということ覚えておいて下さい。あなた方一人ひとりが語られる時に、それは全世界のライオンズを代表して語っていらっしゃいます。別の言い方をすれば、皆様方には分かって頂けると思いますが、ここにお集りの方々が、ただここに集まっていらっしゃる数だけでなしに、一人ひとりがもう百人ものライオンズの方々を代表してここに集まっていらっしゃるし、また行動を続けて下さるということです。ですから是非ご理解を頂きたいのですが、あなた方はこの社会において最も代表的な活動を続けておられる方々であるし、それを担い続けて頂きたいということです。

そのことが実は昨日と、今日の朝、私がしてきたことにつながっているのであります。昨日、常陸宮ご夫妻、天皇の弟君にお目にかかりましたし、また首相の村山富市氏にもお会いする機会が与えられました。今朝はまた、秋篠宮文仁親王にお目にかかる機会を与えられたことによって、実はあなた方がなさってきた活動の成果として私が受け入れられたのだということ喜び、また誇りに思っております。心からお礼を申し上げます。私がこうし

ジュゼッペ・
グリマルディ
国際会長
来日スピーチ

Giuseppe Grimaldi

てこれらの方々にお目にかかったということは、とりもなおさずここにお集りの方々、日本のライオンズの方々がこの社会においてどんなに大きな貢献をされ、また人々に尊敬されてきたかということの証拠として示されたのだということを、私ははっきりと分かっております。

今日私は、特にあなた方がなさってきたこと、寛容な心でもってどの様に社会に貢献してこられたということが、こんな形で現れてきているということを、今特に申し上げ、そしてそれを認識し、そして私だけではなしに国際理事会がそれを確認しているということをお願いしたいと思います。

そして、ことに視力ファーストのキャンペーンの中であなた方が貢献して下さいました。本当に豊かな思いでもって貢献して下さいました。世界で最大の献金が成されたということの特にご報告を申し上げておきたいと思えます。特にここで申し上げておきたいことは、当然視力を失ったはずの500万の全世界の人々が皆様方の献金によって救われた。そして視力を回復することが出来たという状況であります。そして3千5百万人にも及ぶ全世界の目の見えない人々、またやがて視力を失うであろう人々の為に、この全世界で集められた何百万ドルというお金が既に分かれたれ、また治療と教育の為に使われているという事実をまたご報告しておきたいと思えます。そして私はこのことをお約束しておきたいと思えますが、皆様方が捧げて下さったお金を、また私たちが努力を致しましたお金が、必ず最も有効に使われるということを、まず何よりも理事会を代表してお約束したいし、またLCIFを代表してお約束をしたいと思うのであります。

このサイト・ファーストの働きというものは、運動というものは、私たちが持っております可能性を極限にまで発揮したのものと誇ることが出来るだろうといえます。そしてこの

サイト・ファーストの運動というものは、ライオンズクラブの人々が何かをやりたと思った時に、それを必ずやりとげることができるし、また出来たということの証明であると思えます。

あなた方の代表として国際会長に就任を致しましたこの前の国際大会において、私は国際的な結束ということをお願いしました。それは、私たちが自分たちの為だけではなく、全世界の人々の為に働き続けたいと思えますし、そのことを掲げましたが、それに共同して頂きたい、共に働いて頂きたいと願うわけです。そして、毎日毎日何万、何十万という人々が全世界のおろかな戦いの為、争いの為にその命を失いつつあるという事実を目を向けて頂きたい。3万5千人の子どもが毎日医療と食料と水がないということの為に死んでいっています。そして、百万にも及ぶ難民が全世界で死に瀕しております。誰もが手をつけてくれないからです。そしてまた、数多くの人々が職業に就くことが出来ない為に飢えにさらされております。私たちここに集まっている人々は、社会の道徳性、倫理性においてエリートといわれる人々であります。その人々がいったいこの現実を目をつぶって無視して、そしてそのままにしておこうと考えているのですか。この様に世界の中で飢え、苦しみ、悩み、そして働くことが出来ないでた打っている何百万の人々をそのままにしておくのですか。これが私があなた方に投げかける質問であります。

勿論ここにお集りの方々、ライオンズの仲間、またご夫人方が今私が申し上げていることに同意して、配慮を全世界のこれらの悩んでいる人々に手を差し伸べ、配慮を伸べて下さるということを、必ずそこに加わって下さることを信じております。

ご存じのようにアフリカのルワンダで既に百万を超える難民が流出しておりますが、その人々が家に帰った

ジュゼッペ・
グリマルディ
国際会長
来日スピーチ

Giuseppe Grimaldi

LIONS CLUB

くてもルワンダには食料もありません。水もありません。また病院も建っておりませんし、医療体制も整っておりません。家もありません。それらの人々をどうしようというのですか。だから、今日私が申し上げたいことは、ルワンダのこれらの難民の人々が愛を取り戻し、また全世界の人々に人間的な交わりと信頼とを取り戻すことができる様に協力をして頂きたいということであり、それはここにいらっしゃるお一人びとりに対する訴えです。

そして、ボスニアヘルツェゴビナのヨーロッパのライオンズの人々が努力していることをあなた方にも手伝って頂きたいと願っています。ヨーロッパのライオンズの人々はボスニアに教育センターを造ることの決断を致しました。

私はこれらの人々に続いて日本のライオンズの方々が、この前に座っておられる人達のリーダーシップに従ってルワンダの人々の為に大きな活動を展開して下さい、そしてあなた方が寛容な心を持ってこれに答えて下さることを信じています。既にあなた方がお示し下さいました様な、あの大きな寛容と豊かな貢献を今回もまた続けて下さることを信じています。ここで、ガバナールの方々にお伺いをしたいと思います。ルワンダの為に働きたい、プログラムにご協力をして頂けるでしょうか。展開して頂けるでしょうか。皆様方はどうでしょうか。これに参加して頂けますでしょうか。挙手をして。ありがとうございます。そしてやがてルワンダにライオンズのマークの付いた病院、これは日本のライオンズの方々によって造られたものであると印のある、その様なものが建てられるに違いないと私は信じています。

これが、全世界の179の国と地域にあるライオンズの方々と共に働く結束ということの意味であります。それがまたライオンの精神です。ライオンズムというものは、全世界の人々の未来

に対する、将来に対する配慮だといっ
ていいでしょう。そしてこの様な働き
が続けられる時に、全世界の人々が二
度と広島や長崎の様なことを繰り返
さない、戦争が起こらないという世界
を日本のライオンズの貢献によって
確信し、またその為に働く様になっ
て来ることを私は確信しています。そ
して全世界の人々がけっして、けっして
その様なことをしない。その様な世界
を作り上げていくことが私達の使命
ではないでしょうか。そして全世界の
人々が皆様がお持ちになっていらっ
しゃるのと同じ様な微笑みを顔に浮
かべて日々生きていくことが出来る
様な世界を作り上げて行きたい。それ
が私の願いです。憎しみがなく、差別、
非難、攻撃その様なものが無い世界を
作り上げていくこと、それが今の私た
ちに課せられている使命だといふこ
とを是非覚えて下さい。

そしてそのことが、今ここにお礼を
申し上げておきたいと思いますが、全
世界の人々の協力によって、その人道
的な結束が成し遂げられて、そしてそ
の様な平和な世界がやってくる。それ
が今あなた方の手に、肩にかかっている
ということを申し上げておきたい
と思うのであります。

有難うございました。

Lions 活動レポート LC Club

市川 LC 会長 L.野村泰司

荘村清志ギターリサイタル

市川 LC では「魅力ある例会づくり作戦」の第 2 弾として、日本クラシックギター界の第一人者、荘村清志氏のギターリサイタルを 8 月 23 日例会場にて開催した。情感溢れる演奏に、お客様はもちろん「クラシックは居眠り」を決め込んでいたメンバー諸兄でさえ、瞬きすら忘れて聞き惚れた。

荘村氏は映画「禁じられた遊び」のテーマ曲で有名なナルシソ・イエベス氏に師事し、NHK 教育の「ギターを弾こう」の先生としても知られている。

この企画は当初単なる「新しい例会づくり」が目的であった。しかし、社会全体が豊かになった現在の我が国においては、これまでの物質的・労力的奉仕とは別に精神面への奉仕、すなわち「心への奉仕」を LC の事業として取り組む必要があるのではないかとの考えにより、この演奏会は単なる例会から「新しい事業」へと位置付けが変わっていった。

そこで超一流の音楽家の演奏会に、各委員会から次の方々を招待した。

1. 市川 LC が継続的に後援している市川児童合唱団の団員のみなさん。(市民教育委員会)

流山 LC YE 委員長 L.若葉三津男

未知の国ハンガリーよりの 特別 YE 生

8 月 1 日～8 月 14 日迄、ハンガリーの日本語学校の生徒 3 人の女性を、特別 YE 生として、受け入れました。

ハンガリー人の祖先はアジア系だそうで、我々日本人とも、全くの他人ではないそうです。

8 月 2 日には市長訪問、8 月 4 日には、流山 LC の納涼例会に招待し、ハンガリアンダンスを披露して頂きました。8 月 11 日には、流山市民との交流会を行い、ハンガリー国の紹介、トロクバーリントン実験学校(日本語学校)の紹介、スライド等によるハンガリー観光、文化、芸術等の紹介、3 人の女性の自己紹介、ハンガリーダンスの紹介、市民参加

2. 教育委員会のアシスタント・イングリッシュ・ティーチャー・プログラム(AET)で市川市で教鞭をとっておられる外国人の先生方とそのご家族。(国際交流委員会)

3. 地域の音楽好きの高齢者のみなさん。(事業委員会)

また、LC についてこれらの皆さんに理解をいただくために通常例会の形をとり、近隣 LC の方々や入会予定者、メンバーの家族・友人にもご参加いただいた。

例会後の懇親立食パーティーは質素ながらも 111 名の参加者が楽しく過ごすことができ、LC の持つサロンの側面をよいかたちでアピールできた。また TT タイムでは盲導犬普及協会への援助金として 4 万 5 千円獲得。下期にももう一度計画しており、今度は「チェロ」だ「落語」だと今から盛り上がっている。



のハンガリーダンスのステップの練習等、又、最後には、彼女達手作りのハンガリー料理と飲み物のプレゼントがありました。

尚当日は流山市長(眉山俊光様、ハンガリー大使館一等書記官、カーラス、イムレ氏、ZC、L、小谷正太郎、YE 特別委員、L、青木孝、始め、多数の方々に参加して戴き、盛大かつ成功裡に終了することができました。



Lions 活動レポート LC Club

船橋ポートLC L.田嶋俊一

船橋ジュニアオーケストラ オーデンセ市演奏旅行助成

アンデルセンの生誕地、デンマーク王国 オーデンセ市と船橋市の姉妹都市締結5周年を記念して、船橋ジュニアオーケストラの方々が演奏旅行をする事を聞いて、当クラブ相川会長を始め、多数のメンバーの賛同により、120万円の助成を決定し、8月7日船橋文化ホールで行なわれた壮行演奏会のステージで贈呈いたしました。

一行120名は8月15日 空路コペンハーゲンへ向けて出発し、途中列車、フェリーを乗り継ぎ18時間もかけて、やっと夜遅くオーデンセ市に到着しました。コンサートは、同市滞在最後の夜に、カールニールセン記念ホールにて、約700人が集まって開かれた。アンカーホイユ市長挨拶の後、両国国歌の演奏によって始まった。プログラムは「仮装舞踏会」「浜辺の歌」「スラブ行進曲」と続き、カクテル、タイムの休憩後メインの「運命」の演奏が始まると同行した大人達の目に涙が光るのが見られた。最終楽章が終ると一瞬、沈黙のあと万雷の拍手が起り、次々と立ち上がる観衆から、アンコールの声が止まず、「海の見える街で」と「ラデッキ行進曲」が演奏されて、やっとおさまった。

その後、ストックホルムとコペンハーゲンの見学をして、子供達は初めての北欧にビックリしたり、関心したり、素晴らしい勉強をして、無事21日成田に到着した。



上総LC

“千年の森が 命の生きた水を作る”

昔から上総地域では、上総堀り技法による井戸があり今も久留里商店街の中に、昔のままの生きた水が自噴しております。

三年前から、“水まつり”が実施され、近隣地域からも好評を頂き、私共上総ライオンズクラブも協賛して、二年目になりますが、今年は8月7日講演会も催し、テーマとして“千年の森が命の水を作る”と題して、鶴見武道先生に、お願いして実施されました。

当クラブとして、講演会等を含めて10万円の金銭アクトを致しました。



Lions 活動レポート LC Club

結成式が終了、チャーターメンバー55名 新しい時代を創る コスモスに、幸あれ！

9月17日(土)午後一時より市原市能満の山倉ダム湖畔に新しくオープンしたホテル「プラザ・ラ・マレア」に於て、市原市に三つ目のライオンズ「市原コスモスライオンズクラブ」が結成された。当日は333-C地区ガバナーL江畑耕作を始め来賓小出善三郎市原市長、地区役員と、5リジョン、2ゾーンのライオンズ、ライオネスの各クラブの三役及び前三役並びにスポンサークラブである市原ライオンズの会長L、小松原正美以下の多数のメンバーが見守る中、厳粛のうちにも盛大に結成式が行われた。この市原の地は現在人口は28万人に比して、既設の2クラブ、1ライオネスでは如何にもライオンズ活動を展開する上で、不十分のそしりを免れえない。今回のエクステンション委員長のL、庄司辰二郎はそれを常に感じていた。そこで今回の大きなテーマとして前会長L、庄司辰二郎、前幹事L、吉田紀雄らが中心となって市原クラブのメンバーが積極的に会員誘致に総力を結集した結果、チャーターメンバー55名(女性会員4名)もの大型クラブの発足を見るに至った。このことはライオンズクラブにとって最大のアクティビティとしてのエクステンションを高く評価しなければならない。



新ライオンズクラブの役員は会長L、高山敬を始めとして、役員、委員会構成委員に誠に巧まずして人を得ている。これはこの地区が国府の里、菊間国として古くから栄ええた歴史があり八幡宿の飯香岡八幡宮の裏鳥居は大化の改新後の653年に創建され国府総社八幡宮として、その昔関東武士団の崇敬を集めていた。また市原市の山田橋の国分尼寺(寺域は尼寺として全国最大の11町歩の規模をもつ)の稲荷台古墳群からは、日本最古の銘入り鉄剣が出土(1988)された。

この他にも上総国分寺跡や神門古墳群、菊間古墳群などの歴史上の繁栄の跡が数多く見ることが出来る。このような事と深いかわりあいがある様な気がする。

今年の江畑ガバナーのスローガン「上げよう価値ある奉仕とL字の仲間」の実践編第一号の誕生劇はこうして幕が挙がった。因みに「コスモス」の名前はコスモスは市原市の「市の花」から来ている。菊科の1年草、ギリシャ語で(Kosmos)は宇宙、秩序と調和のある世界を意味しているともいわれている。

市原コスモスライオンズクラブは333-C地区で103番目のクラブ、第5リジョン、第2ゾーンに所属、事務局の所在は市原市根田457-12、J A市原市である。

認証式は11月27日(日)市原クラブの30周年記念式典と同時に行なう予定です。

皆さんのプラザースクラブとして、地域の発展と共に発展を期していくコスモスライオンズクラブを、今後温かい気持ちで見守り、成長にお手をお貸し下さい。

(記高岩)



Lions 活動レポート LC Club

君津LC ACT報告

「君津駅・南・北口にフラワーポット16ヶ所を設置し、6月末に植え替えたマリーゴールドのお花の水かけを当番制で行い、今年は暑く雨が少なかったため、連日の水かけで頑張りました。」

7月5日～10月9日迄



オークション 収益48,400

7月14日

第一例会において、会員持ち寄りのオークションを行い収益金¥48,400を獲得致しました。



献血279名

8月29日

君津中央公民館にて、献血奉仕 麦茶・湯茶の接待を行いました。279名の協力者を得ました。

58,600cc+成分献血50名



Lions 活動レポート LC Club

鋸南 LC

環境美化の バケツリレー

当鋸南ライオンズクラブでは、第二中学校近くに「ライオンズガーデン」と銘々した花畑を設けてあります。人々の目を少しでも楽しませることができ環境美化のために多小でも役に立てればと会員の手で造営したものです。このライオンズガーデンを、夏の暑い一日多数の会員があつまり雑草を取ったり、ゴミを拾ったりと整備に汗を流しま

した。水道が引けるわけではないので、雨水をためるために設置したドラム缶から全員でバケツリレーをし水をやっているのが写真の風景です。

周囲を道路と田に囲まれたほんの小さな一面の土地ですが美しく清掃されたのを眺めると、この夏は水不足ということもあってか、とりわけ水の大切さ、またたとえほんの小さなものでも自然の大切さ、を身をもって感じた一日です。奉仕作業で流した汗はなぜか爽やかさをもっていることを諸兄は充分ご存じのことと思います。もちろん作業後には、会員にもビールという名前の水を補給することは忘れませんでした。



干潟 LC

クリーンな町づくり推進

今、環境保全問題は、世界的にも注目されている問題です。町行政としても、取り組んでいかなければならない重大な仕事ではないかと思います。

干潟ライオンズクラブでは、運動の一環として、クリーンな町づくり推進をスローガンに空カン、空ビンなどのポイ捨て防止の立看板を設置して啓蒙を図ろうと、去る8月27日町内各地区主要ヶ所に18基を設置しました。

当日は、残暑の厳しい日でしたが、教育社会福祉委員が中心となりメンバー多勢の協力のもとに予定どおり終了しました。クラブメンバー全員の熱意を込めた看板はよく目立っており、これからは、少しでもポイ捨てが無くなり、町の環境美化に役立てばと願っています。



Lions 活動レポート LC Club

旭LC

「第16回海上郡市児童生徒」 科学工夫展・論文展開催

青少年育成事業ACTの一環として旭LCが力をいれている上記展覧会が今年も大成功のうちに開催することが出来た。

会場には、所狭しと並べられた力作がずらりと置かれ、子供たちの作品を観る両親、お年寄り約1,000人の人達が訪れ、熱心に観察されていた。又、当日は、Z・CL、黒須悦三をはじめ、飯岡LC三役各位からも励ましを頂き、館内は終日、大にぎわいであった。



多古LC

老人クラブを招き 栗山川ライン下り

1994年8月7日(日)午後5時より、栗山川あじさい広場に於て、多古ライオンズクラブ主催、川を愛する「かもちんの会」「カラオケ愛好会」「楽団OGサンセット」の協賛により、多古町老人クラブ、町民の皆さん250名を招待してライン下りとカラオケ大会開催。焼きそば・焼肉・飲物コーナーのサービスにより、たのしい納涼大会となった。特にライン下りは好評で、兩岸の夜景が素晴らしく船2隻5時～9時まで満席、今後多古の観光、町おこしとしたい。

カラオケ大会参加者30名、飛入りにビクター歌手、森宮あや子が出演、会場に花を添えた。



東庄LC

米寿祝表敬訪問 〈こころの交流も〉

9月11日(日)東庄町内で、本年88歳になられる方37名の自宅を訪問して、お祝い品を贈る。

当クラブでは継続ACTとして長年実施しているので、米寿を迎えた方々も、クラブメンバーの訪問を心待ちにしている。

過ぎにし日々の思い出話などを聞かせていただきながら、心の交流をもと願いながら続けている。

人生の大先輩である、米寿者の明るい笑顔が、私達にとって何よりの励ましになっている。



Lions 活動レポート Club

銚子LC LEOクラブ

水難者救助の募金活動

銚子中央レオクラブ(岡田充弘会長、会員30人)は、海の記念日に当たる7月20日、銚子市役所前で「青い羽根募金」活動を行った。

この募金は、海上保安庁の補完機関である日本水難救済会が行っているもの。同会は、海上保安庁と連携を保ちながら、2万人あまりの救難所員を配備して、海上での遭難者の救護に当たっている。

集まった募金は、貴重な救助資金として、救助機材の整備にあてるなどして有意義に活用されている。

活動の主旨に賛同した同クラブのメンバーは、当日猛暑の中募金を呼びかけ、合計で57,167円を集めた。



千葉LC

会場一杯の模擬店

今年の夏は本当に暑かった。酷暑とおまけに「水不足」、夏野菜の高騰、毎夜の炎熱地獄だ。そのかわり「米」は大豊作だ。秋の味覚の果物もたわわに実って、甘さは抜群だ。恒例の納涼例会が8月24日午後6時からロイヤル、ホテルで行なわれた。大勢の家族を交えて(総勢130数名)楽しいそして夏まつりの緑日の演出を心がけた企画だ。メンバーは全員浴衣姿、法被、作務衣ありのラフなスタイルだ。家族は矢張り女性は浴衣姿が多い。お客さまには千葉大の安達教授と千葉市立病院のナースの皆さんを招いての心温まる

気配りだ。その他抽選会、ガレーセール、交換即売会あり、終わりはマジックのアトラクションで3時間の家族納涼例会は瞬く間に過ぎた。奉仕の精神は家族の理解と協力が必要だ。「四海兄弟」の心は脈々として千葉クラブに「生きて」いる。



飯岡LC

萩園海岸へ看板塔設置

環境保全のため、第3ゾーン合同ACT入選標語の看板塔を萩園海岸へ設置した。表示した標語は次のとおり。

- A 青い海 白い砂浜
ひとりひとりの心がけ
飯岡小 伊東 紀子
- B 作ろうよ
すてきな環境
未来のために
三川小 菱木 未来
- C よごすまい
はだして歩ける
九十九里浜
矢指小 鈴木亜希子



Lions 活動レポート Club

市原LC、市原南LC、市原南LSC合同例会

結集された力は 素晴らしい”

8月25日(休)に市原LC、市原南LC、市原南LSCの合同例会が新装成った市原マリン、ホテルで開かれた。会場には定刻前に市原南、市原南ライオネスのメンバーがバスを連ねて、市原は三三、五五、続々と集まって来る。三倶楽部の合同例会は流石に壯観だ。開会前からこの三つのクラブのグッドスタンディングとは積極的参加意欲の現われであることを目の当りにみる。市原LC、幹事L、大西章哉の司会で議事は肅々と進められていく。今日の議事は盛り沢山で三クラブの幹事報告、市原クラブの新入会員の入会式、インドのパロードLCからクラブ訪問の挨拶あり、クラブにとって最高のアクティビティである市原コスモスの結成準備会の報告がエクステンション委員長L、庄司辰二郎からなされた。この報告はこの日会場に集まったメンバー全員から賞賛とねぎらいの声が無きで挙がった。今日の例会の圧巻だった。



千葉エコーLC

ライオンズクラブ果樹園浴の下、 自然に包まれた例会だ

今年の夏は本当に暑かった。酷暑の言葉がピッタリだ。おまけに「水不足」と夏野菜の高騰、炎熱による体力の消耗は近年にない現象だ。そのかわり「米」は大豊作だ。秋の味覚の果物もたわわに実って、甘さは抜群、うまさもこれ又バッチリ。恒例の千葉エコーの納涼例会が8月23日大勢の家族を交えて楽しいそして自然に囲まれた、野趣一杯の千葉中央観光ぶどう園で行なわれた。親睦と企画の苦心の「ぶどう棚」の下にしつらえた緑一色の会場設営だ。あわい電灯の光の下での海の幸を含めてのバーベキューは微かに人の心のぬくもりを感じる。当日は会長L新貝孝逸が肌ぬぎで自ら「こねや」をやり、第一副会長のL遠藤藤五がこの暑いさなか、大汗をかきかき杵を奮って餅つきをした。涙ぐましい共同作業だ。これも大勢の家族を喜ばしたい一心からだ。この夏場に餅つきでもあるまいと思ったがこれが意外に好評だ。黄粉餅、からみ餅にしてアツと言う間に売り切れだ。子供達にとって餅つきは珍しい光景だろう。夏の夜の家族一同との楽しい語らいと、家族を含めた会員相互の交流のひとときはこうして過ぎていった。ライオンズの本質は親睦(心のふれあい)と奉仕(愛)の精神だと言われる。そしてそのことを実践するこは大勢の人の理解と協力が必要だ。先ず家族の理解協力は一番大切なことだ。この日はリジョン、チェアマンL中村新一郎、ゾーン、チェアマンL五月女弘、PR情報委員L高岩正美の三氏と、日頃献血奉仕活動等々を通じて多大のご協力を戴いている京葉LSCの波木、鈴木、吉田の三名のライオネスの方々が来賓として出席した。



クラブ結成 20周年記念に寄せて

4R-2Z 船橋京葉LC L. 鈴木 行正

ブ ラザークラブのL各位今日は、皆様にはご一家お揃いで素晴らしい毎日をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

我 が船橋京葉ライオンズクラブは、船橋中央ライオンズクラブのスポンサーにより、1975年10月19日認証状を伝達されて以来、「ウイサーブ」を基として本年チャーターナイト20周年を迎えることが出来ました。この間クラブ運営に多くの困難もございましたが、歴代会長を始め会員一同の協力により大過なく過ごして参りました。地域社会への奉仕活動は勿論のこと、特に献血奉仕活動には実績を積み重ね、京葉の献血か、献血の京葉か、と評価を戴いて居ります。これも親クラブを始め、ブラザークラブ各位のご指導の賜物

と深く感謝申し上げます。さて、20周年記念事業にあたり、例会時に「ホンネ」と「タテマエ」の両論でいろいろ議論がなされました。現在のクラブメンバー数では、皆様を式典等にお呼びしては失礼であろうと、ならばRC並びZC、キャビネット役員さんをお迎え致す、クラブ訪問例会時にささやかに発表申しあげ、意義ある記念例会にとの運びになりました。

「20周年記念アクティビティ」

1. 333-C地区ACT資金に90万円 (18名×5万円)
2. 千葉県船橋赤十字血液センターに助成金50万円
3. 千葉県アイバンク協会に30万円
4. 千葉県腎バンク協会に30万円
5. LCIF 1,000\$ 11名 10\$全

員(18名)献金

6. 年27回の献血奉仕活動の実施

地 区内クラブにあってこのような形で迎えたことをご承知くだされば幸いです。我がクラブの発展への一つの節目とし、今後もライオンズムの原点に帰り微力ではございますが社会奉仕に全力を尽くしたいと考えて居ります。

小さくともキラリと光るクラブでありたいと存じてます。何分にも小人数の船橋京葉です、より一層のご指導とご鞭撻を賜わりますよう宜しくお願い申し上げます。

大切な紙面をお借りして発表の機会を得ましたこと心よりお礼致します。ありがとうございました。

当 日は、船橋赤十字血液センター職員様のご出席を戴きました。



ライオンズ、 有り難う

1億3千万ドルの目標に対し、1億4千6百80万ドル獲得
333C JA Iwao Kusuoka District Coordinator
1994年9月1日

クラブ会長及び CSF委員長各位

視力ファースト・キャンペーンは、大成功を収めました。私たちは、ライオンズが世界で最も偉大な実行家であることを世界に示し、自分自身に対しても実証したのです。ライオンズ全国の同胞ライオンズと共に、心を一つに、国際的なチームとして協力しながら、1億4千6百80万ドルを集めたのです。アメリカのフェニックスで開かれた国際大会は、この業績を祝いました。これだけの資金獲得は偉大な功績ですが、もっと偉大な満足感、視力ファースト・キャンペーンのお陰で、何百万人もの人の暮らしが良くなることから得られます。「われわれは奉仕する」のモットーに、私たちは新しい意味をもたらしました。視力ファースト・キャンペーンの資金援助を受けて現在行われている優れた事業のリスト(次頁を参照)を見る時、ライオンズクラブ国際協会に所属することで与えられるユニークな奉仕の機会を考えて下さい。そして、皆さんのご協力の故に、新しい、より良き暮らしができるようになる人々のことを考えて下さい。ライオンズであること、そして、新しく変わって来ているこの世界で、ボランティアの指導者であることは、素晴らしいではありませんか。

1991年から1994年にクラブ会長を努めて下さった皆さん、キャンペーンのために特別な指導者となって下さった数多くのCSFクラブ委員長の皆さん、そして資金を出してCSFに協力して下さいった何万人、何十万人ものライオンズ及びライオンズの友人の皆さん、有り難う。

敬 具

ブライアン・スティーブンソン



追伸：CSF資金は、今からでも送金できます。クラブや個人から受けた契約寄付その他の寄付金で、残っている分を、できるだけ早く規定の方法で送金して下さい。獲得を口頭で報告した寄付金が正式に記録されるよう、必ず送金する必要があります。

私達の業績を誇りにしよう

目標	US \$ 130,000,000
獲得資金 (未記録)	US \$ 146,800,000
獲得資金 (記録済)	US \$ 125,500,000
資金獲得を報告したクラブ	27,162
1クラブ当たり平均獲得額 (未記録)	US \$ 3,464

注意：未記録の資金とは、1994年6月29日にライオンズ指導者が報告した獲得額である。記録済資金は、1994年8月22日現在、LCIFに入金しており処理された資金である。クラブの獲得資金が記録済資金とされているか、CSF委員長又は昨年度のクラブ会長に問合せよう。送金するのは、今からでも遅くない。

CSFの仕事完了させよう

仕事はまだ残っている

- 残っている資金、クラブの誓約寄付、個人の誓約寄付を、できるだけ早く規定の方法で送金しよう。
- すべてが正式に記録されるよう、それぞれクラブの責任を果たそう。
- 誓約寄付の支払を促す制度が設けられた。クラブの誓約寄付や会員の誓約寄付が記録済資金として参入されるには、LCIFに資金が送金されて記録されなければならない。

視力ファースト・ キャンペーン資金の活用

去る8月に開かれた視力ファースト諮問委員会(以前は視力ファースト事業案考察委員会)の会議では、9か国における18件の視力ファースト事業に対し、援助金が交付された。

これまでに交付された視力ファースト援助金の額は合計US \$ 33,200,000に達し、

38か国で失明予防の事業が行われている。

最近承認された事業は、次の通りである。

ナイジェリア

ナイジェリア・ライオンズ糸状虫症コントロール事業——年間約285万人を対象とする5年計画の治療事業で、治療の薬を配布すると共に、基本的な保健制度が今は存在しない地域で、そのような制度を設ける。

..... US \$ 2,084,310

エチオピア

白内障手術その他の眼科診療にあたる15人の看護人を5年計画で訓練するライオンズ眼科看護人訓練事業——エチオピアには現在、235万人につき一人の眼科医しかいない。

..... US \$ 175,680

ブラジル

視力ファースト・ゾーン——貧困者に白内障の手術を施す3件の事業

..... US \$ 22,800

ボリビア

視力ファースト・ゾーン——貧困者に白内障の手術を施す4件の事業

..... US \$ 62,435

ウルグアイ

視力ファースト・ゾーン——貧困者に白内障の手術を施す事業

..... US \$ 8,250

インド

数件のライオンズ視力ファースト・アイキャンプ——進展状況観察と事後評価を含む白内障手術事業

..... US \$ 2,325,000

ネパール

ライオンズ無料眼科病棟—ルンビニ眼科病院——貧困の患者に眼科診療を施すために、72台のベッドを備える病棟増築

..... US \$ 389,000

タイ

視力ファースト失明予防及び眼科診療訓練事業——東南アジアで仕事をする眼科診療員を徹底的に訓練する1か月の教育事業

..... US \$ 176,000

バルバドス

ライオンズ・カリブ海眼科診療センター——視力ファースト資金を受けたカリブ海地帯の施設に医療器具を提供

..... US \$ 745,008

日本向け援助資金交付状況

(1985年度～1993年度)

			単位	ドル
●1985～1986年度	○日本(330-B地区)	セント・アリアナ医大精神治療センター(フィリピン)		11,764.11
	○世界各国	68件		
	○日本(331-C地区)	水害援助		5,000.00
	○日本(333-B地区)	水害援助		5,000.00
	○日本(336-D地区)	水害援助		5,000.00
	○日本(336-A地区)	水害援助		5,000.00
	○日本(336-B地区)	火山被害援助		5,000.00
	○日本(332-A地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(337-C地区)	台風被害救済		5,000.00
	○日本(330-B地区)	韓国らい病救済		15,000.00
	○日本(335-C地区)	タイ, かんがい事業援助		22,106.00
	○日本(337-D地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(337-C地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(334-A地区)	フィリピン, 特殊教育施設内体育館建設援助		11,723.00
	○日本(336-B地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(332-E地区)	洪水救済		5,000.00
●1988～1989年度	○日本(336-C地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(336-D地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(331-B地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(331-A地区)	洪水救済		5,000.00
●1989～1990年度	○日本(335-A地区)	聴力障害者のための事業		41,000.00
	○日本(333-B地区)	医療リハビリテーション事業		25,641.00
	○日本(333-C地区)	洪水救済		5,000.00
	○日本(333-D地区)	台風救済		5,000.00
●1990～1991年度	○日本(336-C地区)	広島アイバンク		40,000.00
	○日本(337-A地区)	学校のフェンス補修		13,294.00
	○日本(337-C地区)	火山噴火災害援助		5,000.00
	○日本(334-A地区)	ネパールの病院設備		28,643.00
	○日本(334-C地区)	台風被害援助		5,000.00
●1992～1993年度	○日本(332-C地区)	アイバンク登録制度開発		27,680.00
	○日本(335-C地区)	関西盲導犬協会にライオンズ訓練所建設		50,000.00
	○日本(330-A地区)	ナイジェリアの病院のために腎臓透析装置2台購入		50,000.00
	○日本(334-A地区)	フィリピンで小学校建設		33,000.00
	○日本(337-C地区)	障害者のための施設建設		50,000.00
	○日本(331-B地区)	地震救済		5,000.00

第1回キャビネット会議議事録

1994年7月24日、旭市プライダル武蔵野において開催されたライオンズクラブ国際協会333-C地区1994~1995年度第1回キャビネット会議の議事の結果をご報告致します。

尚、当日の出席者及び挨拶、あるいは各委員長等の報告、又は意見等は概略キャビネット会議資料に掲載されているとおりです。同資料をご参照下さい。

1994年7月24日
ライオンズクラブ国際協会333-C地区
地区ガバナー L. 江畑 耕作

提出議案

- ①第1号議案 キャビネット会議及び付属会議議事規則(1994~1995年度)について。
(キャビネット会議資料P16)

審議結果 提案通り承認可決。

- ②第2号議案 前年度会計決算報告並びに承認の件。
第3号議案 前年度会計監査報告の件。
上記2案 (キャビネット会議資料P21~34)

審議結果 提案通り承認可決。

- ③第4号議案 ガバナー提出議案 (キャビネット会議資料P35~38)

1. 地区会計監査委員委嘱の件

審議結果 提案通り承認可決。

1994~1995年度地区会計監査委員
L. 竹田良美 (習志野LC)
L. 中 良一 (船橋中央LC)

2. キャビネット会計の業務執行に伴う担保提出を免除する件。

審議結果 提案の通り担保提供免除を承認可決。

3. 青少年健全育成を目的とする青少年育成基金については、その重要性に鑑み前年度に引続き、区内会員1人当たり1,500円を提出し、その運営を図りたい。

審議結果 提案通り承認可決。

4. LCIFへの協力について。
①国際協会プログラムを尊重し、LCIF強化のため地区内会員1人当たり\$10以上の献金を各クラブにお願いしたい。
②MJF献金への理解と協力を引続き各クラブにお願いしたい。

審議結果 提案通り承認可決。

5. 世界ライオンズ奉仕デーについて。
10月8日の世界ライオンズ奉仕デーは、全員参加による意義有る奉仕活動を展開されたい。

審議結果 提案通り承認可決。

6. 慶弔見舞金規定を慶弔見舞規定と改め、感謝状条項を加えたい。
キャビネット会議資料P38「感謝状について」のイとロの字句を1部訂正と加筆された別紙資料にて提案説明が行われた。

審議結果 提案通り承認可決。

感謝状について (別紙資料の提案文)

- (1)次の条件に合うクラブ員及び一般人に対し、地区ガバナーは感謝状を贈る事が出来る。但し、当該クラブ会長の推薦と手続きが有った場合とする。
イ、20年以上通算して正会員であるか、15年以上通算して正会員であって少なくとも70歳に達している者で、所属クラブとその地域社会に対し、功績が著しいと認められた会員が死亡した場合。
ロ、生前、ライオンズクラブを通して献眼、献腎登録したクラブ員及び地域に於けるライオンズクラブ関

係者並びに一般人が死亡し、献眼献腎を実施した場合。

(2)手続き

イ、当該クラブ会長は責任ある推薦依頼文を地区ガバナーに提出する。

(提出先はキャビネット事務局へ)

ロ、葬儀等に間に合わせる為、FAXにてキャビネット事務局もしくは内局員に直接送信した場合は、電話等にて確認のうえ打合せを行う。

ハ、感謝状の贈呈は原則として所属するクラブ会長が代行する。

7. 旅費規定を別項の通り定めたい。(キャビネット会議資料P37)

審議結果 提案通り承認可決。

8. 本年度アワード規定について別項の通り定めたい。
(キャビネット会議資料P39～40)

審議結果 提案通り承認可決。

(8)本年度特別アワード規定・追加提案

1994～1995年度ガバナーズアワード特別賞として
「国際大会・参加記録優秀賞」 メンバー 若干名
クラブ 若干クラブ

審議結果 提案通り承認可決。

9. 333-C地区第41回年次大会について、下記の通り定めたい。

日時 1995年4月23日(日)

場所 東総文化会館(旭市)

審議結果 提案通り承認可決。

10. 地区緊急災害援助資金の運用委員の指名について。

審議結果 提案通り承認可決。(キャビネット会議資料P35記載)

11. 地区アクティビティ資金運営委員の指名について。

特命委員の(1年委員)は(3年目委員)

特命委員の(2年委員)は(2年目委員)

特命委員の(3年委員)は(1年目委員)に書き換えて提案

審議結果 提案通り承認可決。(キャビネット会議資料P36記載)

④第5号議案 地区予算審議

審議結果 提案通り承認可決。

付属会議提出議案

⑤第6号議案

リジョン・チェアマン及びゾーン・チェアマンが、役務上を行うクラブ訪問の目的を現す統一用語を定めたい。

リジョン・チェアマンの場合「リジョン・チェアマン訪問」
ゾーン・チェアマンの場合 「ゾーン・チェアマン訪問」とする。

審議結果 提案通り承認可決。

⑥第7号議案

ライオンズ関係の文書や書類に、キャビネット構成員等と書かなければならないところを、等を入れなくて構成員とだけ書いてある場合が多く見られ、判断を要するときなどに混乱が生じる恐れが出て来た。

(1)過去の文書や書類にキャビネット構成員等の「等」が入っていないとしても「等」が入っているとみなす。

(2)今後作成される文書や書類には「キャビネット構成員等」と正確に記す事を求める。

審議結果 提案通り承認可決。

YE生派遣報告 [1] 1994 夏期派遣生

1994年の夏期派遣生が8月末日、各国の受入先で文化・言葉に触れ多くの体験をし、素晴らしい思い出を土産に無事帰国いたしました。YE委員会の協力を得て体験レポートをまとめ、2回に分けて掲載いたします。来日YE生レポートも次号で引き続き掲載いたします。

オーストラリア 新しい体験、 人との出会いの連続

A'203 江口 幸史(SP.C 白井LC)

私は今回YEの派遣生としてオーストラリアのクィーンズランド州にあるタウンズビルという街にいかせていただきました。この街は日本をすっぽりつつみこむくらいに大きいグレートバリアリーフというサ:ゴ礁に面した人口10万人程度の美しい街でした。

オーストラリアに行く前までは、そちらが冬だということもあって、多少肌寒いのではないだろうかと思っていたのですが、タウンズビルという所がオーストラリアでも北部に位置しているため非常に暖かく、日中などは半袖半ズボンでちょうど良い程でした。そちらに着いてからは、ほとんど雨も降らず毎日のように、日本から来た他のYE生といっしょに、いろいろな所に連れて行っていただきました。川下りやパラセーリング、またグレートバリアリーフへのクルージングなど、ここには書き切れない程の貴重な体験をしました。ライオンズクラブの活動にも少し参加しました。それはガンの撲滅キャンペーンのようなもので、街中のパブを回り寄附金を集めるというものでした。私は第一ホストファミリーのピーターとパブで寄附金をつつつビールを飲むことを繰り返し最後の方では、二人でへべれけになりながら寄附を呼びかけていました。これはこの街のライオンズクラブで十何年間も続けている運動だそうです。また街の人の寄附への感心も強く、皆、心よく寄附をしていました。ただ私の興味を持った点は多くの方が私達がなぜ寄附を集めて



いるかなどの主旨をしっかりと聞いたうえで納得してお金を出すといった所でした。日本人は寄附をする時ここまでしっかり、そのことについて考えているのだろうかと思いました。その第一ホストのピーターは最近離婚したばかりで一人で暮らしていたのですが、非常に明るく、気さくな人で、その家に滞在している間、とても楽しい時を過ごしました。ピーターが途中、仕事の関係で家をあけることになったので、他の日本から来たYE生のホスト先の家族に10日間程、お世話になりました。その家族は、夫婦と息子でくらししており、オーストラリアの一般的な家族と生活を共にすることができたという意味で非常に有意義な時を過ごせました。とにかく西洋圏の人々とあまり接したことのない私にとって、この1ヵ月間は、新しいもの、人との出会いの連続で非常に速く過ぎ去っていきました。そして素晴らしい思い出をたくさんつくることができました。このような機会を与えてくださったライオンズクラブの方々に非常に感謝しております。そして、私はいつの日かこの街を訪ねることが出来れば、と思っています。

オーストラリア 「タウンズビルで暮らした一カ月は夢の よう」青空に青い海、あたたかい笑顔

A'218 上村 建作(SP.C船橋LC)

1994年7月29日の午後4時すぎ、僕と他のYE生、Yuki、Yuko、Satoshiの4人はタウンズビル空港に降り立った。シドニーへ寄ってきたので、この街の天候がとても、あたたかく

感じられた。空港は小さくて、ところどころに南国風の街路樹が目についた。飛行機を降りて、空港のロビーへ行くといきなり僕たちのホストファミリーが各々、迎えに来てくれた。「Hello!」、「Nice to meet you!」etc笑顔で僕たちを迎え入れてくれた。

僕のホストファミリーはDon Rolfeさんで家族は5人だった。僕は事前に彼らから手紙をもらってそのことだけは知っていた。とにかく僕は(と言っても、多くの人たちがそうであるように)ホームステイという体験はもちろん、海外で生活すること自体

Youth Exchange [YE] 目的

- 1) 青少年たちに外国の若人と親しく接する機会を与える。
- 2) 異なった文化的背景を持つ社会における日常生活を経験させる。
- 3) ライオンズを通して国際理解と親善を促進する。

初めてだった。不安がないわけではない。英会話だって、大して出来ない。しかし、僕はそういう状況を無責任ながら楽しむことにした。

Don(44)は1家の主。妻Dawn(44)。Donは『constructions Rolfe』という建築関係の会社のオーナーだった。Dawnはハイスクールのタイプの先生、共働きカップルだ。長男Richard(21)と次男Simon(18)は父Donの会社で働いている。長女Sonya(15)は母Dawnと同じハイスクールへ通っている。

僕は彼らの中へ家族の1人として入り込んでいった。ただ、あくまで僕は言ってみれば“イソウロウ”であり目に見えない境界線みたいなものが存在していたのは否定出来ない。それだけDonの家族は絆が強いのだ。ただ、僕とすれば変に家族ごっこ的なものを体験せず、自分を尊重させてくれたことに感謝している。彼らは僕を21才の大人として扱ってくれたのだ。僕に任せられた家事は自分の洗濯だけだった。僕の部屋を用意してくれて、それを初日に案内してくれた時、ホームステイの実感が初めてわいた気がした。とにかく、こうして僕のDonの家にお世話されることとなった。

1カ月の間、ほとんど毎日ライオンズの人たちが、僕たちYE生をどこかへ連れて行ってくれた。カヌー、ホースレース、ホースレディオ、動物園、ゴルフ、セイリング、牧場、アーミー、地元の大学。それからDonのビーチハウスや、隣りの家から30kmも離れて牧場を営んでいる知り合いの家、グレート・バリア・リーフやマグネティック島という島へ2泊もライオンズの協力で行かせてもらった。1カ月、楽しい楽しい毎日が続いた。朝、トーストを食べて出発。ランチはたまに、Dawnがおいしいサンドウィッチを作ってくれて、夜はDonとDawnとSonyaと食事。Dawnが作ってくれた。その後、ティーをしながら、4人でいろいろな話をした。この時間が僕にとって、ホームステイ期間中1番、重要な時間となった。このティータイムはお互いのその日の出来事から、日本と



オーストラリアの文化の違いについて、例えばナイフとフォークの使い方から、日本と朝鮮の関係についてまで、我々はあらゆる事柄について話をした。三人は僕のためにゆっくりと話をしてくれた。Donは“Do you understand?”と何度も何度も説明してくれた。Sonyaはいつの間にか、僕の英語の先生になっていて、僕がわからないと他の人に代わって説明してくれた。僕はずっとSonyaに感謝しっぱなしだった。

こうして本当にアッと言う間に、1カ月過ぎてしまった。本当に僕たちに彼らはよくしてくれたと思う。感謝している。1カ月の後半は次男のSimonとそのガールフレンドにとってもお世話になった。ちなみに彼らには可愛い赤ちゃんがいて、すごく愛らしい。お別れの日、Dawnが『いつでも来ていいのよ』と言ってくれた。僕たちは固く握手をして別れた。今、振り返ればタウンズビルで暮らした1カ月は夢のようだった。青い空に青い海、人々の暖い笑顔、今、僕の中で何が変わり始めているか、わからない。ただ、この夏の出来事が僕の中で何かを生み出すきっかけぐらいにはなると思う。再び彼らと会う時は、成長した自分でいたいと思う。“お世話になったライオンズクラブのすべての人に感謝します”

オーストラリア
ビクトリア州、
マッカーサーに滞在して
A'220 斉藤 綾乃(SP.C 房総勝浦LC)

私がステイさせていただいた所はオーストラリアのビクトリア州でマッカーサーという所でした。そして私のホストの方はそのライオンズクラブの会長さんでした。とても小さな町だったので、町の人達が歓迎して下さって毎日のように家に招かれたり、遊びに行ったりして、オースト

ラリアの食べ物を食べたり、お話をしたりして多くの友達も出来ました。英語に関しては、最初、聞きなれるまで2、3日かかってしまいました。あと生活して行く上ではあまりこまりませんでした。ときどき、知らない単語が出てくると辞書で調べてくれたので、辞書はとてもべんりでした。あと発音がとてもむずかしくて、何度も直される事がありました。一週間もしたころにはオーストラリアの生活にもすっかり慣れてしまって、あとの3週間はとても短く感じました。私のホストの方はひまがあればいろいろな所につれていってくれたので、たくさんの経験をしました。家にいる時は日本料理をつくったり、ケーキを焼いたり、ホストのお母さんに料理をおそわったり、毎日が貴重な経験でした。そして私はこの経験をきっかけに、いろいろな面で少し考え方が変わった気がします。これからも、もっと英語を学んで行きたいと思えます。

このプログラムに参加させて下さったライオンズの皆様と、なによりも私の両親そしてオーストラリアのホストファミリー



の方にとってもかんしゃをしています。今後、また機会があったら、オーストラリアに行こうと思っています。

このYEプログラムは、とても重要なものだと思います。今後もぜひつづけていただきたいと思っています。

オーストラリア トラファルガー 人口2,000人の町

A'221 渡辺 有希(SP.C柏ゲインLC)

私が行って来た所は、オーストラリアのメルボルンから車で約2時間のところにあるトラファルガーという人口2,000人くらいの小さな町でした。ホストファミリーは年輩のご夫婦で、子供は2人とも結婚してそれぞれに家庭を持っているので、現在は夫婦2人でくらししているという家庭でした。

そのご夫婦は共にライオンズクラブのメンバーであり、YE生も過去に10人、そのうち日本人のYE生は3人も受け入れているということもあって、私のために様々なプログラムを用意して下さいました。

私は大学で文化について学んでいるということもあって、外国の学校というものに興味があるということをおーストラリアに行く前に手紙に書いたら、向こうに着いたらきちんと見学できるようにと配慮して下さい、とても感激しました。その他にもオーストラリアでしか見られないもの、体験できないものを中心にプログラムを組んで下さっていて、そのお陰でペンギンのパレードや世界一大きなミズをみたり、馬乗りをしたり、牛の世話をしたり、本当にここには書ききれないほどの貴重な体験をすることができました。

私は4週間のプログラムで1つのホストファミリーだったのですが、後半の2週間はドイツ人のYE生の女の子と共にすごしました。彼女は私よりもずっと英語力があって、英語のジョークなどにもきちんとついていける人だったので、彼女が来てすぐの時には自分の英語力のなさをひしひしと痛感してコンプレックスのかたまりのようになってしまいました。もっと私に英語



力をもっとあれば、彼女とももっとうちとけられるのにと思うと悔しくてたまりませんでした。前半の2週間は本当に何も悩むこともなくのほほんと過ごしてきたので、彼女が来てからはじめてホームシックになったりしました。しかし、そこから立ち直らせてくれたのは彼女とホストファミリーの人たちでした。私が我慢できずに、自分の気持ち—例えば、英会話についていけなくて疎外感を感じてしまったこと、たくさん伝えたいことがあるのにそれが上手に言葉にならないことがすごくもどかしいこと—を正直に話したところ、みんな一生懸命話を聞いて理解してくれました。話す前は、こんなことを言ったら嫌われてしまうのではないかとすごく不安でしたが、今になってみるとあの時正直に話せたことで、ホストファミリーとより深い関係になれたように思っています。

ホストファミリーの方だけでなく、あちらのライオンズクラブの人たちみんなが私を歓迎して下さい、本当によくしていただきました。おかげで私はたくさんのすてきなオーストラリアの人々と知り合うことができました。オーストラリアに行つて、オーストラリアにも両親ができたこと、たくさんの人と知り合えたこと、そしてオーストラリアという国を大好きになつ

て帰ってこれたことを本当に幸せだと思っています。そして、こ

のYEのプログラムに参加できたことを本当に感謝しています。

オーストラリア ビクトリア州 Toora A'222 植木 千絵 (SP.C松戸東LC)

今回、私はYE生としてオーストラリアへ行き、ライオンズからの派遣生として、日本の文化を紹介すると共に、一ヶ月の間オーストラリアの文化や生活に触れることができました。

オーストラリアを一言で説明するのは難しいと思う。言葉や文字を越えて自然が直接、語りかけてくるようでした。空を見上げると星がまるで1つや2つ落ちてくるのではないかとおもうほど近く感じ、今まで見たこともない星空が空いっぱいに広がっていました。初めて流れ星を見ることができました。あまりにも一瞬ではありましたが、しばらくそこから目を離すことができませんでした。

オーストラリアという国は、まだ若い国で、歴史も浅く、まさに自ら歴史を築き上げている。という感じでした。私のいた町、Tooraは人口600人の小さな町でした。もしかしたら町の人口よりも牛や羊の数の方が多かったかもしれません。そんな所にも人が住み、町を作り、道路があり、車を走らせているのです。どこまでも続く広大な風景を見ながらいろんなことを思いめぐらしました。

着いてまもなく、英語に多少の自信があった私も、Aussie Englishオージーイングリッシュには、最初戸惑ってしまいました。そしてやたらと省略が多く、Aをアイと発音することなど。Good



day(グッドダイ)は、人と道で出会ったときなど、Hello (ハロー)よりも多く使われています。TVをテリー、Today (トイウデイ)をトゥダイ、eight(エイト)をアイトなど聞きなれるまで時間がかかりました。

そしてHost familyに年の近い子がいたため、一緒に学校にいたりして、同い年ぐらいの友達もたくさんできました。一度、小学校にも招待され、小学校二年生のクラスで折り紙を教えてあげたり、たのしい一時を過ごしました。

今回、ライオンズクラブを通してオーストラリアに派遣されたことをうれしくおもいます。貴重な体験をさせて頂きました。これを機会にまた、日本文化を理解し、日本文化に誇りをもつことの大切さを知り、再確認していきたいと思います。

最後に、両親と大変お世話になったライオンズクラブの皆さん本当に感謝しています。ありがとうございました。

ニュージーランド つるを折ってのプレゼントに大喜び NZ22 福井英里子 (SP.C習志野LC)

7月16日～30日までの6週間、N・Zに行ってきました。良い体験をしてきました。

最初のホストの家は、農場だったので、ラリーバギーに乗って、お父さんと、バギーで農場を回って羊や牛を他の場所に移動させたりした。そして、アメリカ人の子供とお母さんとお父さんと一緒にクラストチャーチより少し北の方に天然の温泉があった。まわりが雪だったので、足がとても寒く、みんな温泉につかっているとき、イスにすわっても、まだかたとか出るのに私の場合は、立っていても、顔のところまできていた。

2軒目のホストのお父さんは、警察官だったので、手錠をはめられてろうやにいれられてしまいました。手錠がすごく重かった。そして、友達が近くにたくさんいたので、みんなで馬に乗っ



たり、羊を殺すところを見せてもらいHappyでした。ちょっと、血の臭いがウツときたけど…。

あと、学校の体育館を借りて、日本人だけでバスケをしていたら外人の子供たちがたくさん入って来て、メチャクチャのバスケになったけど、楽しくできた。

最後の家は、とてもながめがよく、子供がいなかったのも、とてもかわいがってもらった。お父さんが、大型バスのツアーガイ

ドをやっていて、みんなでつれてもらって海辺を走っているとペンギンやら、あざらしやら、くじらの死体を見た。そして、お父さんの会社のボートで海を廻っていると、たくさんイルカがすぐ近くで見れた。

バーベキューでソーセージを焼かされたりされてたけど、お金のかんじょうもお父さんに、しょうばいがうまいとほめられた。そして、帰る2日目の夜がお母さんの誕生日だったので、

レストランでパーティをした。人一倍たべたのでみんなにだいじょうぶかと心配されてるのと、この子は、よく食べると思われてるかもしれない。パーティーが終わってから、家についたら前から作っていたつるをプレゼントであげたら、すげーよこばれた。そんなこんなで、あつという間に帰って来てしまいました。また、会いに行きたいです。

ニュージーランド 一日一日が脳裏に焼き、離れない NZ23 春口 淳一(S.P.C 成東LC)

本年度、夏期派遣生として、NZを訪れた春口淳一です。大変貴重な冬……ではなく、夏を過ごすことが出来ました。

では、まずニュージーランドについて、

日本との時差は3時間、また南半球にあるため季節は冬、南風が冷く、太陽は東から昇り北を回って、西へ沈みます。

ところで、全てのホストがそうでしたが、この国の人はラグビーが大好き。日本の相撲なんて、目じゃない、特にNZナショナルチーム、ALL BRACKの試合は全国民が、テレビの前に集まるといってもいい。また、これは親に内緒ですが、NZといえばビール!! 1人当りの消費量は、日本をはるかに抜いて、世界第9位、「スタインラガー」「キーウィラガー」「ライオンレッド」「DB」などの銘柄が特にうけがよく、Tシャツやパーカーにそのラベルが使われる程の人気ぶりです。まさにNZのスピリッツといえますね。

……さて肝心の文化交流についてですが、

各家庭において、できるかぎりの事はしました。幼稚園、小学校で折紙を教えたり、逆にまた多くの工場を見学し、NZの産業を知りました。

しかし、2度目のステイ先がすごかった。

800人の小さな町に、YE生が16人!! 一度、各ホストやお世話になった方を招待して、みんなでパーティをしました。

主に女の子が、日本料理をつくりましたが、僕も函館から来た奴と二人で海の男の料理をつくりました。また、エンターテイメ



ントとして、日本の歌を歌ったり、ピアノを弾いたり、けん玉したり、花笠音頭をおどったり…。中には、フルート吹くやつも、いたりして楽しかったです。

ちなみに、この時、僕は剣道の素振りを披露しました。恥ずかしかった分反響も大きく満足していただけました。

各ホストは、2週間、僕に退屈させまいと、いろいろな体験をさせてくれました。Mt. Cookでは、飛行機を使って氷河着陸をし、牧場では、馬に乗ったり、羊の毛刈りをしたり、ただ、羊を殺すところを見た時は、ちと、くるものがありました……。

また、最大の都市オークランドでは、有名ショッピング街へ。日本人店員に驚かされました。

全日程の中で同じ日は、二度となく、一日一日が脳裏に焼きついて離れません。

大学進学に際し、おそらく、僕は千葉を離れることに、なると思いますが、在学中に、もう一度、このYEプロジェクトに参加させて、いただければ幸いです。これで報告を終わります。

どうも、ありがとうございました。

ニュージーランド 一人での飛行機移動は不安だった NZ223 三品早知子(S.P.C松戸中央LC)

私は7月25日から8月27日の33日間、ニュージーランドへいってきました。朝の7:00ぐらいにニュージーランドへついたので、

とても空気が冷たくひんやりして、本当にニュージーランドへきたんだとわくわくしました。空港にはライオンズの方がまわっていてくれて、みんなでバスに乗り、ロトルアのホテルまでいきました。途中でオークランドにある死火山にいき、オークランド市内を見渡しました。それからランチを食べ、ロトルアのホテルまでいきました。ロトルアのホテルでは、ニュージーランドの先住民“マオリ族”の踊りをみせてもらい、なかなか興味をひきま

した。

次の日には羊の毛刈りや、国鳥のキーウィをみせてもらい、楽しむことができました。ニュージーランドについてからの2日間、このような観光をしました。7月28日にHost familyへ移動しました。私はルアトリアという小さい村にいきました。ちょうど、同じ方向の人がいなかったで、飛行機の移動(ロトリアーウェリントン、ウェリントンーギスボン)を1人でやりました。とても不安でしたが、空港にはライオンズの方がいらしてくれたので無事に着くことができました。

ルアトリアには、日本からのYE生が16人いました。いつもこの16人でずっと行動していたので、つい日本語を使ってしまい、あまり英語を使えなかったのがやしいです。ルアトリアはマオリの方が比較的多く、いろいろとマオリの文化にふれました。

マライというマオリの集会所にとまったり、マオリのダンスを教してもらったりしました。Light Houseにいった帰りの時にやった海辺のバーベキューはとてもおいしかったです。

あと、みんなで乗馬をやったり、教会をみにいったりと、楽しかったです。でもちょっとくやしかったのは、いつも16人まとまって行動していたので、あまり英語を使えなかったのがやしいです。でも私はいつもこの16人の面倒をみてくれたゴードンやポール、そしてこんな私の英語をほめてくれたアグネスのことが大好きです。忘れることはできません。ルアトリアは夜、とても星がきれいです。どこをみても星がいっぱいです。ルアトリアでの生活を楽しく送ることができたのは、この15人や、ゴードン、ポール、Host family、アグネスがいてくれたからです。出会



えることができてうれしかったです。

次にオカイホウという小さな村にいきました。Host fatherは牧場を経営していて145頭の牛を飼っていました。Host motherは学校の先生をやっていたので、1日だけ学校に連れていってもらいました。マオリ語の先生はペンダントをくれました。皆、とても友好的で、たくさん話しかけてくれました。学校でおり紙を教えてあげたら、みんな喜んでくれました。

その他、海が近かったので船に乗ったり、バスで一番北端のレインガ岬へいったり、またファンガレイという町へshoppingに連れていってもらったり、いろいろと楽しむことができました。Host motherはとても料理が上手だったので食事がいつも楽しみでした。1ヶ月間、とても楽しくニュージーランドで過ごせました。このような経験をさせていただき、ありがとうございます。決してこのことは忘れません。

ニュージーランド 「羊育記」パパは恥ずかしがり屋だが、 優しさがつたわってくる人

NZ224 高橋 淳之 (SP.C船橋中央LC)

“漠然と感想を”と言われても、あれやこれや次々と浮んできてしまっ、とても收拾しきれない。とにかく走って走って走りぬいた一夏(あっちだと冬?)だった。まだ一言も出て来てないのでここで記すが、今年の7月25日から8月27日までの日々を、僕はニュージーランドで過ごした。この34日間で僕は様々な人々に出会い、様々な経験を積み、様々なものを置き去りにして帰って来た。

僕はこの一時に2組のKiwi Parentsに出会いそれぞれに別かれを告げた。暗中模索の僕をmiltonで育ててくれたのは、羊飼いの家族だった。ホームステイ2日目、夜に僕は“日本での常識を忘れさろう”と午後10:00すぎの寝静まった家から満天の星々を見ながら日記に記していた。3日目にはすでに羊飼い身をそめて果てしなく広い牧場をパパと一緒に四輪バギーで駆けていた。パパは無口で恥ずかしがり屋だけど、優しさ伝わってくるそんな人だ。一仕事終わると、陽気でおっちょこちょいのママ



が焼いたフルーツケーキで茶をすする。料理もすこぶるうまい。決して豪華ではないけれど、家庭的な素朴な夕食である。夕食後は、マークとテレビを見てコーラを飲む。思い出せば、様々なところに連れてってくれたけど、何よりもこの平凡な羊との生活が僕にはまぶたから離れない。“またいつか”一言日本語をかわしたのが耳に残る。

そして、僕はニュージーランドの南端から北端へ、育ててくれる家族の住む村へ飛ぶ。残り半分をまた走り出す。Kaitiaiaでは本当にいろんな経験をした。馬は乗ったし、銃も撃ったし、狩りにも行った。最北端では太陽が北に昇ることを実感して一人

で感激してた。パパもママも共働きで毎日Kaitiaia L. Cの方々に日変りでいろんな体験をさせてもらった。そして今も耳に鮮やかに響くのは、“じゃあね、Yuki!!”というKaitiaiaのラジオ局のマオリのDJの声だ。空港へ向かう車のカーステレオから、流れてた、マイケル・Jの局と彼の声が“いよいよ走り終えるんだ”という実感を持たせてくれた。走っていると長いけど、振り返ると短い一時だった。

たくさん迷って、困って、不便な旅で良かったと今、思ってい

る。何もかも便利な物質に囲まれて、手をのぼすと届いてしまう日本の生活では、味わえない電気じゃ得られない暖かさを感じることができた、そんな旅だった。国際親善なんて、ちっともできやなかったけど、たくさんの人と出会って別れて、それで僕は満足している。YE派遣生としては、プログラムの本意に添ってないかもしれませんが、今回New Zealandに行けて心底よかったと思っています。ありがとうございました。

ドイツ ドイツ最南部、バイエル地方で G5 小川 晴功(SP.C 成東LC)

第一ホストはドイツ最南部のバイエル地方でボーデン湖から車で30分程の小さな町で、ドイツのホストは医者や家庭が多く、彼も目医者をし、4人家族で私と同年の女の子はスウェーデンのライオンズキャンプに参加しておりました。

町は昔、城壁に囲まれていて、一部その名残りをみることができ、又、道路はすべて石つくり、古い建物そのままの家並が残っている情緒ある町でした。又、玉ネギの形をした教会の塔、ピアガーデンと一緒にいる教会、ドイツでは15才からビールを飲む事ができ、ピアガーデンに行くとき1%のジョッキをもち、楽しそうに話しているのが印象的でした。知人の結婚式に参加し、オーストリア、スイス、ドイツに接しているボーデン湖の船上披露パーティに出席しました。

オーストリア迄、100kmのサイクリングに行き、日本では決して味わえない自転車での国境を越えての外国旅行をする事が出来ました。

第二ホストは北部でしたが、息子が南部のパサオの大学にいる為、むかえに行く途中、寄ってくれ、一緒に北部までいろいろな場所を観光しながら、世界一のパイプオルガン、ビール工場、ドイツでは何百種類のビールがあるそうです。アンブルグではゴシック建築の教会、3日間かけて見学しながら行きまし



た。ここでは、ダブルホストで病理学者の家庭で、その内の一人は、ライオンズのホームステイで大阪に行っておりました。

ハノファーから西に30分の静かな町でした。北部の町は車では進入できず、郊外に駐車して町に歩いていき、とてもゆったりした所です。この家庭では週末を使い、色々な所に小旅行を楽しみ、その一つにベルリンに行き、今は記念に残されたベルリンの壁を見る事ができ、それを境にして現在でも異なった別々の国を感じました。

キールではミュンヘンオリンピックの時のセーリングボートの会場だった海と選手村等、多数の有名観光地に連れていってもらい、日本では味わえない、素晴らしい経験をさせてもらいました。

最後にもっと英語を勉強してもう一度、ぜひドイツに行きたいと思います。

アメリカ ネブラスカ州で素晴らしい体験 NE15 古川美和子(SP.C九十九里LC)

私はこの夏アメリカのネブラスカ州でとても素晴らしい経験をしました。二人で1家庭に4週間ホームステイをしたのですが、ホストファミリーの人達は陽気で明るく親切で、それが表面上のつくり物ではなかったので不安もなくまるで我が家にも

いるように寛ぐことができました。

ホストファーザーとホストマザーは、ドイツ系アメリカ人で白人。実子が1人でその他の子供はインディアンや黒人の養子でした。これは特別な事ではなく、ごく普通のことだと養子について話してくれました。ここでは、子供達は何処からどの様な状況でこの家に養子にきたのか当然の様に知っていました。ホストマザーが子供達をととても愛していると何度も私に話すのを聞き、血がつながっているとかないというのは関係ないのだと、心温まる思いがし、本当の家族というものはどういうものか

考えさせられました。

ホストファミリーの人達はとても日本のことを知りたがり、いろいろ質問されました。私の拙い英語を一生懸命一語一語聞いて理解してくれようとしてくれました。私はうれしく思うのと同時に、日本についてよく知らないことを感じ情なくも思いました。英語が話せる話せないという以前の問題でした。しかし、日本について説明するという事は改めて日本というものを客観的に考えられる良い機会だったと思います。

ホストファーザーとホストマザーに“You are excellent representatives for your family and country.”と言われ、このためにこの言葉を聞くために私はここに来たのだと、ホームステイの意味を深く感じました。言葉では言い表わせない、言



い尽くせないほど多くの貴重な体験を今後の自分と世界に役立たせたいです。

アメリカ ネブラスカ州、エルムウッド

NE16 鈴木 香葉(SP.C 松戸中央LC)

私はアメリカのネブラスカ州にある、人口たった600人という小さな町であるELMWOOD (エルムウッド) という所に8月1日～28日までホームステイに行つて来ました。

私のホスト先はおじさんとおばさんの2人が住んでいる家でした。お子さんは2人いるけれど、もう2人共結婚しているのでいっしょに住んでいませんでした。

ホストファミリーの職業は養豚でしたので沢山のブタがいきました。

私が行った時期は、ちょうどお母さんブタの出産の時期だったので生まれたばかりのブタの赤ちゃんを見ることができました。赤ちゃんブタはとてもかわいいので、何もすることがない時はいつも赤ちゃんブタを見て過ごしていました。

私のアメリカでの生活は、サイクリングしたり、乗馬したり(ホストファミリーの人は4頭馬を持っていました) ジョギングしたり、赤ちゃんブタを見に行ったりと日本ではなかなか経験できない生活でした。

又ホストファミリーの人には色々な所に連れていってもらいました。例えばロデオドライブや動物園、野球の試合やゴルフ、お祭やショッピングなどどれも楽しかったです。

そして私がいった町には3人YE生として日本人が来ていて、他の人のホストファミリーの夫婦とYE生3人で4日間の旅行に連れていってもらいました。この旅行では、ネブラスカやサウスダコタの観光地に行くことができました。例えば、よくテレビなどで見たことのある歴代の大統領の顔が4つ岩にほつてあるナショナル・ラッシュモアパークという所やカジノや湖などです。そしてこの旅行中みんなでバッファローを食べに行ったりもしました。バッファローの味はビーフと似ていました。

そして、日本のことについて私のホストに色々話したり、実



際に向うでカレーライスや、みそ汁を作ったりもしました。2人ともとてもおいしいとっていました。特におばさんは日本にとっても興味をもって来て、私が「いただきます」「ごちそうさま」をおしえたら、食事の前と後にいってくれるようになりました。ほかに日本語は「こんにちは」「ありがとう」「どうぞ」などをおしえました。

私の英語の上達については、英語を聞けるようになったし話す勇氣は持てました。でもきれいな文章として話せるようにはまだ少し難しいです。でもこれからも英語を勉強してもっと英語が上手になるように努力していきたいと思っています。

本当に貴重な体験ができました。色々どうもありがとうございました。

アメリカ ワイズコンシン州ワウサウ あつという間に別れの時が来た

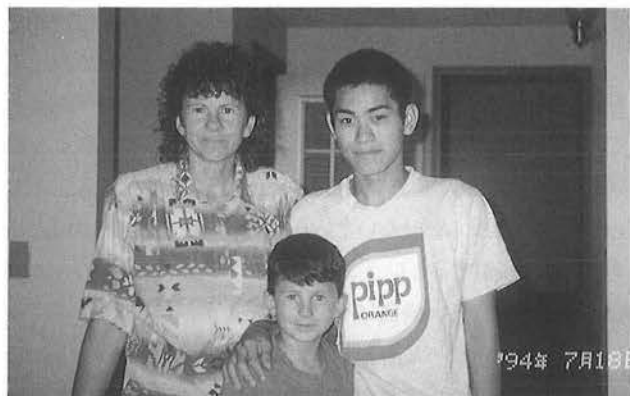
WI4 佐藤 紳介 (SP.C木更津中央LC)

僕は今回のこのプログラムでアメリカ合衆国のワイズコンシン州ワウサウという所へ行かせて頂きました。そこは空港からも近く、田舎ではない、かといって都会でもない小さな街でした。

製紙業がとても盛んでペーパーミールなどがたくさんあり、いつも紙をすいたような奇妙な臭いのただよう美しい街でした。僕が世話になったホストファミリーは一家庭で単独ホストでした。そのホストファミリーはライオンズクラブの会員ではなく、親せきがライオンズのメンバーということで僕がホストファミリーにとってはじめてのエキスチェンジステューデントだったようです。ホストファミリーがライオンズの会員ではなかったので、例会へは一度も参加しませんでした。

僕はアメリカはもちろんの事、今まで飛行機にすら乗ったことがなかったので旅立つ前はかなり不安でした。しかし、向こうへ着いた時、ホストファミリーが温かい笑顔で向かえてくれたのでその不安は一気に消しとびました。僕のホストファミリーは母親と14才の黒人の男の子、そして7才の白人の男の子の3人でした。ホストマザーは何度か再婚したという事を話して下さいました。

僕がアメリカに着いて一番最初に驚いた事は空がとても青いということと、何もかも全てが大きいという事でした。まさにそれはアメリカンサイズそのものでした。僕は向こうへ着いた



次の日に同じ地区の日本人の方々とライオンズのプログラムで世界中から来ている交換留学生が参加するキャンプへ送りこまれました。そのキャンプは一週間で皆で英語で世界平和について話しあったり、自分の国の紹介をしたり、ゲームをしたり、歌を歌ったり、州都のマディソン、ミルウォーキー、シカゴなどへ観光へ行ったりととても充実した一週間でした。その時程世界中の全ての国との距離が近く感じた事はありませんでした。

キャンプ終了後ホストファミリーのもとへ帰り、今度こそ本当のホームステイが始まりました。英語が理解できずホームシックにかかったこともありましたが、そんな時はいつもホストマザーやブラザー達の笑顔に助けられました。あつというまに一ヶ月という月日がたち、別れの時がきた時、僕は涙をこらえることができませんでした。こんな素敵なお人々出会えた事を本当にうれしく思います。そしてこのような機会を与えて下さったライオンズの方々に心より感謝の意を表したいと思います。本当にどうもありがとうございました。

アメリカ・カナダ 前日までステイ先がわからず不安だった

WA4 粕谷敏江 (SP.C房総朝夷LC)

今回私は夏期Youth Exchangeに参加して本当に言葉ではできない程たくさんの経験をしました。まずこのすばらしい体験をさせてくださったライオンズクラブのみなさんや家族に心からありがとうをいいます。

“ありがとうございました。”私は、カナダとアメリカのワシントン州にステイしましたが、まず、行く前日までステイ先がわからなくて本当に不安でしかたありませんでした。“家族はどんな人達だろう”“どんな所に行くのだろうか”頭の中はそのことがたくさん渦巻き3日前までほとんどねむれない状態でした。そして当日成田空港まで車で行き家族や、友人に見送られて飛行機にのりました。飛行機の中では、人見知りしない性格がとりえの私は、たくさんの友達をつくりみんなで楽しく約9時間の長旅をすごしました。そしてカナダ・バンクーバー



空港につくとホストの父と子供たちが向かえに来てくれていて“Toshie”“Toshie”と呼んでくれていました。“Hello!”と笑顔で答えると“Welcome Toshi”と笑顔で返してくれました。しかし笑顔もつかのま、いろいろ話してくれるのにさっぱり意味がわからなくて“だれかたすけてくれー”ってかんじでした。そしてもう1つ困ったことに私の家は“ガリアノアイランド”という人口200人ぐらゐの小さな島にあり“えーっ”てかんじでした。“こんな所に来て私は本当に生きて帰れるのだ

第2ホストはワシントン州のクロッシンという小さな町にステイしてとてもうれしかったのは着いた次の日にお母さんに“ここはあなたの家だよ”といわれたことです。第2はダブルホストだったけど、2人にとっても親切にしてくれて、もう1人の女の子とも“ここにずっと住みたいね。”とっていました。アメリカの時はもうホームシックはぜんぜん、全くといっていい程なくて、逆に日本に帰る日が近づくのがすごくいやだった。アメリカでごはんを作るとき、かぼちゃのものやスープ、あとおにぎりをつくったらすごくよろこんでたべてくれて、おなべいっぱいにつくったものはあつという間になくなってしまいました。

アメリカでは、クラシックカーショーや、ハーバーツアーそして、ワシントン大学やVETERANS Homeに行きました。VETERANS Homeというのは兵役経験者が住んで病気を治りようしたり、生活保護をうけたりしている所で私のステイ先の父の弟のモーリスがそこで病気のちりょうをうけていました。

アメリカのいりょうしせつのとくちょうは、そこにいる人たちが生きてることに感謝しながら生活してて何も心配せず楽しむ時は心から楽しんでいるという所です。私がいった日はフェスタでしたが、看護をする人もそれを受ける人もそしてその家族や友人たちも、楽しんでいたのが心に強くのこりました。

この夏は私について考える時間というか自分自身を見直すこともできまし、今までの自分に全くかわった考えがうかぶということもできてすごくうれしいと思います。

今になるとアメリカ、カナダにいた時間がすごく短かく感じます。もっと、いろんなことをわかりあえたらよかったとかあの時、あれにチャレンジすればよかったとか…。でも、自分が18才の夏、異国の地に足を踏み入れて考えたこと、みたこと、聞いたこと、は一生わすれられないし忘れたくないと思います。

本当にこの夏はすばらしいけいけんができこの機会を与えてくれたライオンズの方々に一生かんしゃします。本当にありがとうございました。

アメリカ・カナダ 行きたくなかったはずが、第2の故郷に

WA5 川名 浩美(SP.C房州朝夷)

私はこのライオンズクラブでのYOUTH EXCHANGEに参加して本当に良かったと思います。はじめは、やっぱり英語も得意ではないし異国の場所へ40日もステイするということが絶対に行きたくないと思っていました。本当に親の強制的なやり方で申し込まれてしばらく不安な気持ちでいっぱいでした。でも、ホームステイの日が近づいてくるうちにだんだんと、この不安な気持ちがうそのように消えていき、楽しみになってきました。出発当日、親と別れるのもさみしかったけど、このはじめての体験にわくわくしていました。だけどやっぱり自分の最初のステイ先のカナダに近づくに緊張してきてドキドキしてしまいました。そして、飛行機がつかいよいよ、これから本格的なホームステイです。

空港では、私のステイ先のお父さんとお母さんがまっています。2人ともとてもやさしそうな人で少し安心しました。空港から家まで1時間、車の中ではつかれておきました。家についてからおみやげをわたしました。折り紙やきんちゃく袋、Post Cardあげたものすべてよろこんでくれてとてもうれしかったです。この家は何人も日本人の交換留学生をうけられていて、日本のものがいろいろありました。その日はつかれてすぐおねてしまいました。

次の日からは、バンクーバーB、Cに買い物につれていってくれたりVictoriaを見につれてくれたり、町のパレードに参加させてくれたりフェスティバルにつれてくれたりといろいろつれてもらいました。

あと、お母さんは、私に気をつけてくれて友達をとま



らせてくれたり私をとまりにいかせてくれたりと、とてもやさしくしてくれました。パレードでは、近くにステイした友達といっしょに参加して衣装してる人たち写真とったり、パレード用にかざった車が街にでた時見物にきてたお客さんにあめをくばったり久しぶりにおもいきりはしゃいで楽しかったです。フェスティバルではコンサートをみせてもらったりして、楽しい思い出をたくさん作らせてもらいました。

別れの日すごくさみしかったけれど、また絶対こようという気持ちを抱き別れました。

次のアメリカは私1人Port land空港行きで成田空港の時の不安がよみがえってきました。だけど、空港についたらHost familyの人がまって、カナダの人とは全タイプの違いで、ノリがよく、楽しい人で私にやさしく「英語がわからなくても大丈夫、私達は日本語の辞書を持ってるから」といってくれて涙がでそうでした。私をむかえにきてくれたのは、お母さんと一番下のAnitaと近くにすんでいるPatricですぐピザパーティをやってくれました。私がピザはたべられないといったらチキンにしてくれました。安心したらすぐお

腹がすいて、いっぱい食べたならそれから私はいっぱい食べる人と思われてしまいました。

パーティーの後は近くのPort landを見学させてくれました。ちょうど日本人の人たちが毎年やっているフェスティバルをやっている、日本のたべ物をうっていたり、茶道をやっていたりおどりをやっていたりしてなつかしかったです。そして夕方、お父さんが仕事からかえってきてつかれているのに滝をみにつれていってくれたりしてくれました。そしてまた、買い物にいっぱいつれていってくれたりフェスティバルや遊園地につれていってくれました。

一番印象に残っているのが6時間かけて旅行にいったことです。Spokaneという一番上のSaraの住んでいる町にきました。そこでは、ホテルにとまり夜の9時ごろプールでおよぎました。さすがに夜はさむくて私は10分ぐらいであがったけれどAnitaは10時まではいっていました。次の日はお父さんの親の家にとまりました。そしたら手作りのコップとナイフをくれました。そして私に、「あなたの一番目のお父さんは、Len(ステイ先のお父

さん)で私が二番目のお父さんだからね」といってくれました。すごくうれしくてまたなきそうになってしまいました。かえるのはさみしかったけれど次の日に別れました。ここの家の人は私の意見をよく聞いてくれて、私がレゲエの音楽が好きだといったらコンサートにつれていってくれ、あるサーフブランドの店にいきたいといったら、1時間半もかけていってくれました。

最後の前の日にはプレゼントまでくれて本当にその場で涙がでそうでした。けれど、心配されるのが好きではない私は、一生懸命こらえました。お別れの日最後まで明るくふるまってくれてすごくやさしかった。今思い出すと帰ってきたくはありませんでした。きっとカナダ、アメリカが私の第2の故郷だと思います。帰りの飛行機では久しぶりにあった友達とさわいでいたけれどやっぱりみんなもう一度行きたいといっていました。私も、もっともっと勉強いつか恩返しに行くつもりです。ライオンズの方にも、心からお礼をいいたいです。私たちをあんなすてきな場所へつれていってくださって本当にありがとうございました。

カナダ、エドモントン 自分を見つめ日本を見つめ直せた

AB30 寺澤 和美(S.P.C船橋東LC)

私は8月31日から9月2日まで、カナダのエドモントン市において2つの家庭にステイさせて頂きました。カナダに行くことは私の長年の夢でしたので、それはもう夢がかなうといった旅でした。

カナダはとにかく広大な土地と大自然を持つ大変恵まれた国です。私がステイしたのはダウンタウンに近く割と都会の町ではありましたが、それでも人々はとても穏やかでんびりしているといった印象を受けました。時間がとてもゆっくり流れているので、普段自分が日本でどれだけ余裕のない生活をしているかを思いしらされた気がします。

ステイ先では、毎日色々な所へ連れて行って頂きました。お家で休んだ日はたったの1日だけでした。十分にカナダの生活を味わうことができ、これもホストファミリーの方々のお気使いのおかげであり、本当に感謝しています。

一番印象に残ったことは、やはりカナダの人々と色々な話を



することによって自分を見つめ、日本を見つめ直せたことだと感じています。もう少し若い時に行きたかったと思うこともありましたが、ある程度英語が理解できる今の時点で行くことができ却って良かったと思っています。

今回の旅ではライオンズクラブの皆様をはじめ多くの方々に大変お世話になりました。そして何よりもカナダのホストファミリーの方々と両親に深く感謝しています。これからは、感謝の意を込めて私と同じように素晴らしい経験ができるようYE生の皆様に応援し少しでもライオンズクラブのお力になれるよう努力してゆきたいと思えます。

カナダ YEプログラムで、視野が大きく変わった

AB31 藤橋咲和子(S.P.C船橋東LC)

7月17日、待ちに待ったカナダへの出発日、不安が全くなかったといえは嘘になるけれども、期待の方がはるかに大きく成田を飛びたつた。それから8月27日までの42日間、本当にあっという間に過ぎてしまった。これ程まで充実した夏休みは、なかったような気がする。

今、ライオンズクラブのYE生派遣プログラムに参加できて心からよかったと思っている。なぜならこのプログラムを通じて私の視野が大きく変わったからである。私が42日間を過ごしたカナダは多民族国家であり、様々な民族が共存している。私を家族の一員として迎え入れてくださった2つのホストファミリーもそれぞれに異なった民族的背景を持っている。そのような家庭環境の中で生活をしてみて、日本はまだ国際化していないということを実感した。ホストファミリーの子供が同年代だったこともあって、彼らの友達も含めていろいろな話を聞くことができた。日本人は外国人をみると、みんなアメリカ人だと考えるとか、また世界で起こっていることなどについてしゃべっているのを聞いているうちに、私も含めてだが、日本人は依然として閉鎖的で、日本が国際化したとは到底いえないということを感じた。

また、カナダには壮大な自然が今なお残っている。そのせいか、カナダに住んでいる人々はゆとりをもって生活を送っているような気がした。そしてリサイクルや喫煙、環境にも大きな関心が向けられている。このような所で生活をして日本に戻ってくると、環境の悪さ、人々のゆとりのなさやマナーの悪さが、今まで以上に感じられてがっかりした。

短い期間だったし、私が出会った人々はみんな親切で心の暖かい人だったので、カナダのいい所しかみなかった。実際は日本と同じように、多くの問題を抱えているかもしれない。しかし心の豊かさは本物だろう。私はカナダで本当に素晴らしい人々に出会えた。壮大な自然や、英語に毎日触れられたこともとても楽しかったが、なによりも多くの人々に出会えたことが幸せ



だった。そのおかげで、日本にただけでは井のなかの蛙で、世界はみえてこないということに気付いたし、自分の視野も広がった気がする。そして自分の将来にいくつもの欲がでてきてしまった。

最後にホストファミリーには本当によくしていただき、別れるのがとてもつらかった。言葉がきちんと通じなくても心は通じるんだと実感した。本当の家族のように迎え入れてくださった私の第2の家族に心から感謝したい。そして今回このような機会を与えてくださった船橋東ライオンズクラブの方々、出発前に何回もオリエンテーションや壮行会を開いて、派遣生としての心構えを説いてくださった333-C地区の国際協会の方々、カナダでお世話になったライオンズクラブの方々に感謝したい。本当にありがとうございました。この夏経験したことや出会った人々は一生の宝物になるでしょう。

1994年9月12日

南オーストラリア, KIMBA ホームステイ先1か所が、少し残念 A31 神田 由香(S.P.C習志野中央LC)

私は7/17(日)に成田を出発して南オーストラリア州のKIMBAという町に行ってきました。場所はアデレードから車で約6時間くらい北に行ったところです。ホストチェンジが1回も無かったこととダブルホストだったのは残念でしたが、とても良いホストファミリーでした。ホストファミリーは、お父さん、お母さん、娘さん2人の4人家族で、近くにはもう1人の娘さんの夫婦とその子供3人が住んでいました。ホストファザーはドイツで生まれてオーストラリアに来て薬をつくる会社の社長をしていたそうです。お母さんと12才の娘さんは中国人で2年くらい前にこっちに来たそうです。12才の娘さんはKIMBAエリアスクールに通っています。2年前まで英語が全くわからなかったそうですが、すごく上手に話していました。お母さんと時々、中国語で話していました。もう1人の娘さんは6月に生まれたばかりの赤ちゃんでした。最初、アデレードの空港からKIMBA



に向かう時は緊張と話すスピードが速いので、ほとんど何を言っているのかなんてわからず「YES」や「NO」としか答えるコトができませんでした。何日かして娘さんと仲良くなれた頃には、だいたい周りの人の言ってるコトが理解できるようになって自分からも積極的に話すように努力しました。

KIMBAは小さい町だったのでお店も少なく、人口も1,500人くらいしかいなかったのですが、町の人達はみんな親切にしてくれました。時々町を散歩していると、いろんな人が声をかけてくれて「いつまでここにいるの」とか「オーストラリアは好

き？」とか、オーストラリアの説明までしてくれる人がいました。学校には3日間だけ勉強をしに行きました。学校でもみんなとても親切にしてくれました。8/17(水)にはKIMBAライオンズクラブのディナーミーティングが有り出席し、スピーチをやらせていただきました。とても楽しく明るいフンイキで行なわ

れたのでスピーチもやりやすかったです。その他、たくさんの体験をしました。オーストラリアにホームステイをしてとても良かったと思っています。今度また自分の力でお金をためてKIMBAに行ってみたいと思いました。

オーストラリア 沢山の発見があり、 もう一つの世界を知ることができた

A32 青山 深雪(SP.C習志野中央LC)

私にとってオーストラリアでの6週間のホームステイは一生の宝物になりました。日本での生活とは違い、ホストファミリーと生活を一緒にすることによってたくさんの発見があり、もう1つの世界を知ることができました。初めのうちはホストファミリーともうまくコミュニケーションをとることができませんでしたが、家族の明るさと優しさに助けられて、とても充実した日々を送ることができました。私が滞在した町はとても小さな町で、日本で生活している私達にとっては、不便だと思えます。いかに私達が過剰なせいたくをしているかがよくわかりました。町の人とはとても陽気で道などで知らない人と会っても全ての人が気軽に話しかけてくれます。町全体が1つの家族のように親しく外に出て歩くのが楽しみになりました。

家族の人と生活を1ヶ月共にして、短い期間でしたが本当の家族の一員になれたような気がします。私のホストファミリーだけでなく、私が会った限りの全ての人々は家族を一番大事にし、とても仲が良く、温かい家族でした。日本に比べると、も



のすごく時間がゆっくりと流れていていつも、せかせかと生活している日本の生活はすっかり忘れて、のんびりと過ごしていました。しかし、1つオーストラリア人の欠点は時間にルーズであることだと思いました。その点日本人は時間には正確だと思いました。

同じ町には他に3人の日本人がいて、その人達とは日本の友達とはまた違った貴重な友達になりました。最後の2日間のシドニーではとても楽しい時を送ることができました。今は本当に心からオーストラリアに行くことができ良かったと思います。これからの将来に十分に生かしていきたいと思います。

オーストラリア 夏期派遣生レポート

A202 稲葉 公美(SP.C松戸南LC)

○ホストの名前・住所

Rex & Hellen Chapman
18 Hammond St, Bellingen
N. S. W. 2454 Australia

○ホストの雰囲気

ごく普通の家庭でした。ただ、反抗期の小さな子供が2人いるため、叱る声は絶えず、少し憂うつでした。かなり貧しいようで、服も穴があいたボロを着ていました。それなのに1ヶ月も私を受け入れて下さり、とても感謝しています。

○一ヶ月の過ごし方

毎日、現地のライオンズの人々が替わる替わる、色々な所に連



れて行ってくれました。釣りをしたり、ハイキング、乗馬、羊の毛刈り、テニス、ゴルフ、バス旅行などなど……とにかくすごく楽しく、また過密スケジュールでした。着くなり1ヶ月のスケジュールがピシッ書きこまれた紙を渡され、それにそって行動していましたが、途中でdownしてしまいました。オーストラリアは物価が安く、日本で買えないものをか

なり買いました。フリーマーケットで値切ったりもしました。むこうの人は皆とてもFriendlyでまたKindlyでした。また是非go backしたいです。

○ライオンズクラブのミーティング

合計で3回ありました。1回の平均時間が約4時間と、とても長く疲れてしまいました。2回は近くのホールで行ったのですが、1回はとても遠くの町で行われ、泊りがけでミーティングに出かけました。皆、dress upしてきどっていました。

オーストラリアでは最後の募金が、1人20d (約16円)と、かなり安いものでしたが、何年も溜めてきたその金を私のために使って頂いて有難いような申し訳ないような気持ちです。むこうでは「ライオンズクラブ」はすごくメジャーで、子供でも全員知っていました。ライオンズクラブのキャンディーまで売ってるくらいです。日本でも、この位メジャーにして、メンバーを増やしたいです。

アメリカ、オレゴン州 到着したユージーン空港でハプニング 夏の思い出は宝物

CA18 森 智佳子 (SP.C柏中央LC)

私はこの夏、ライオンズの交換留学生としてアメリカに行ってきました。これが私にとって初めての海外であるというのに、オレゴンのユージーン空港に着いたとたん、とんでもないハプニングに出会ってしまいました。緊張のまま空港に着くと、むかえに来てくれているはずのホストファミリーが来ていなかったのです。それで私が不安になっていると、サンフランシスコからユージーンまでの飛行機で隣りに座っていた老夫婦の方々が話しかけてくれました。一人で空港に立っていたYE生の私を心配してくれたのです。そして彼らは空港内に放送で呼びかけてくれたり、ホスト先に電話をかけたりにしてくれたのです。その後約一時間位してホストファミリーがようやく空港に現れました。話によると私の着く時間が間違えて知らされていたようでした。助けてもらった老夫婦の方々には充分お礼を言い、別れましたが、彼らがいなかったら私は一人でどうしていたでしょうか。そう考えると感謝の言葉だけでは足りない気がします。

アメリカ人というのは、私が第二ホストで行ったカリフォルニアでもそうでしたが、とにかくとても親切で親しみがあります。考え方もとても豊かですし、そしてなにより優しい笑顔を持っています。



日本人も彼らのように少しは心にゆとりを持った方が良いと思います。日本人は多くの人々が本当に忙しそうにめまぐるしく動いているように思えます。一生懸命働いてたくさんのお金を手に入れても、心は反対に貧しくなってしまうと思います。そんな人にならないように私はアメリカで学んだように、何にでもチャレンジし、柔軟性に富んだ心を養っていきたいと思います。

異文化に触れ、異国のの人々に触れることによって、私の心は前よりも豊かになりました。この夏の思い出は私の宝物だし、きっと誰も体験できないようなことをしたのだと誇りに思います。貴重な経験をさせていただいたライオンズクラブの方々、YE派遣生プログラムに関係していただいた全ての方々、そしてこのような機会を与えて下さった両親に深く感謝致します。どうもありがとうございました。

アメリカ・カンザス州 エンボリア 九州のYE生と二人でステイ

KS3 梅沢 花代 (SP.C浦安)

私はアメリカのカンザス州のエンボリアという町に6週間のホームステイをしました。ホストファミリーは1軒だけで、老夫婦2人の所に九州の大分県から来ていた16才の女の子と2人のホームステイでした。

ホストマザーは銀行で働き、夕方からまた他の所で働き、ホ

ストファザーはリタイアでしたが、アルバイトのようなもので、フェアグラウンドキーパーをしていました。2人も夜遅く帰る日が多く、帰ってくると、けっこうすぐ寝てしまうので、16才の女の子と2人のステイでとてもよかったと思います。あと、私達のホストマザーのいとこの所にも栃木から来ていた16才の女の子もいたので、よかったと思います。

3人で友達を作ろうと思ったのですが、近くには小学生以下、もしくは年配の方ぐらいしかいなかったもので、作れず、残念に思います。それからけっこう暇な日が多かったので、3人でそれぞれ1台ずつ自転車を買って、近くを買い物したり、プールに

行ったり、公園に行ったりしていました。

思い出に残ったのは、あちらのフェアの時、最後の日に車をぶつけあうレースを見た事と、ビンゴに行ったことです。車をぶつけあうレースはとてもエキサイトしました。ビンゴ会場はやはり年配の方ばかりでしたが、とても楽しかったです。あとはショッピングしたことです。

6週間で長いような短いような日々でしたが、自分にとって、とても良い経験になったと思います。こういう経験ができたことをありがたく思い、忘れないようにしたいと思います。



アメリカ、ミシガン州 食料配達人JANIS

MI 3 伊藤裕美子(SP.C八日市場LC)

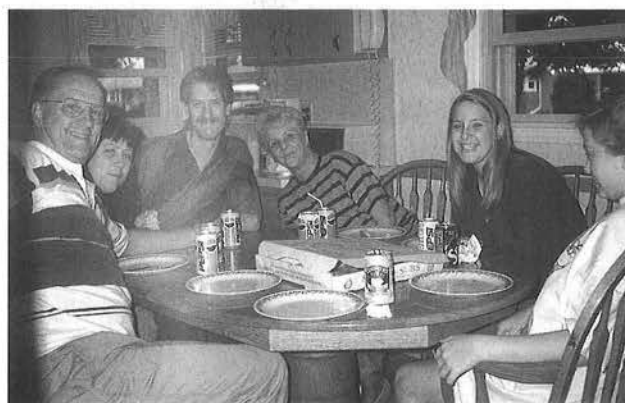
私のアメリカでの生活が始まったと思ったのは出発して4日後だと思っています。なぜなら時差ボケもなお、英語がやっと耳になれてきたからです。ホストファミリーは3人、お父さんのRobert (Bob) お母さんのJanis、シスターのLaurie、でも近所におじいちゃん、おばあちゃん、伯父さんが住んでいたの6人家族だという気がしました。Janisの仕事は薬剤師でBobはエンジニア、2人共、朝早くから夜おそくまで仕事をしているので、5日間ぐらいい人で家にいた時もありました。そのおかげでどこかに行くと言うととてもワクワクしました。1人の時にお昼などはどうしようかなと思っていると食べる事の好きな伯父さんが食べ物を持ってきてくれたり、食べに連れて行ってくれたりしてくれました。だから私は伯父さんの事を秘かに“食料配達人”とJanisと言っていました。

やはりアメリカの人達はよく食べます。初めて行ったアメリカのレストランでのココ・コーラーの大きさにとてもびっくりしました。その後、映画館に行きラージサイズのココ・コーラーをもらい、トイレに行きたく映画どころがありませんでした。

その食生活になれてしまった私は多分+5kgぐらいお肉がついてしまったと思います。でもまだ恐くて体重計にはのってません。

ミシガンの気候はいたって住ごしやすい。23℃～31℃ぐらい、大部分は23℃～27℃。運動をしないかぎり汗はかかない。日本での気温を聞いてアメリカに行ってよかったと思いました。でも家の中はエアコンが強すぎて時々さむかったです。30℃をこえたという日は多分2日ぐらいしかありませんでした。

アメリカで一番こまった事はやはり言葉、初めの日は時差ボケのためまったくと言っていい程、理解できませんで



した。最後にはどうにか言っている事が理解できるようになりました。でもよくなったと思うのはYES, NO, Thank youだけだと思います。私の場合「もっと勉強してくればよかった」でなくあまりにもバカという事がわかって、くやしいので「絶体、しゃべれるようにしてやる」でした、つまり「後悔」でなく「やる気」という事が残りました。

一番うれしかった事は最後の日に言ってくれた言葉でした。私がプレスレットが好きだと言ったのでJanisがくれたプレスレットよりも、もっともその言葉の方がうれしかったです。その言葉というのは、これに書くと自慢になってしまうので書きません。私は心からこのプログラムに参加できたことをうれしく思います。私のホストファミリーに会えた事、他の県に友達ができた事、アメリカ生活ができた事、ならべ始めるときりがなくらいになってしまいます。本当にこんな私を派遣してくれてどうもありがとうございました。この夏は多分、一生の内が一番の夏だったと思います。本当にありがとうございました。

陸自第一音楽隊が 演奏会

房州朝夷ライオンズクラブ

20年近く続けられている陸上自衛隊第一音楽隊(東京・練馬区)の演奏会が、房州朝夷ライオンズクラブ(早川金光会長)の主催で、今年も7月18日、19日の両日、千倉町と丸山町で開催された。同音楽隊は、毎年夏、千倉町に練習のための合宿に来ており、ライオンズクラブの要請で演奏会を行うようになった。今年も、隊長の高橋俊雄一等陸尉ら女性3人を含む32人が来町し、社会福祉センターを拠点に18日から21日まで合宿練習を行った。演奏会は18日が朝夷小学校で、19日が丸山町農業者トレーニングセンターで行われ、多数の町民を魅了した。



ユニークな記録登載

鴨川LCで「私が一番」 の本を出版

長二十五センチ)、夫婦年齢合計百八十七才、親子三代漁業就労など。このほか自然を探究して五十年、大道芸を生かした福祉活動、リヤカーで四十七年行商といった地道な生活や活動を続けている人物を取り上げているのが特徴。

「二十二才を筆頭に子供が計十三人」「わが家の御神木は樹齢三百年」といったユニークな「一番」を集めた本「あなたがいちばん、わたしがいちばん」が鴨川ライオンズクラブ(佐々木義祐会長)から発刊された。

同クラブの記念事業の一環として、地域活性化に役立ててもらおうと、鴨川市と天津小湊町であらゆる分野の一番を募集、これをまとめたもの。百五十人を超す「私が一番」の中から十分に吟味の上、百点にしばった。

本はA四判、百三十五ページ。けん玉世界記録チャンピオン(五時間三分)、標高一番(三八六メートル)の家、大きなミドリ亀(体

編集後記

グリマルディ国際会長の来日公式訪問、YE派遣報告、クラブ奉仕活動報告が主な掲載内容となりました。

限られた紙面で、いかに必要な事柄を伝達し地区ニュースとしての役割を果たしていくか、まだまだ研究していかなければならないと思います。

校正を3回しても見落としがありました。が、千葉日報社の協力で、順調に編集活動が実施できました。PR情報委員・編集委員各位の熱意に感謝しながら、更に「友愛」が、素晴らしいライオンズクラブの会報となるよう努力いたします。

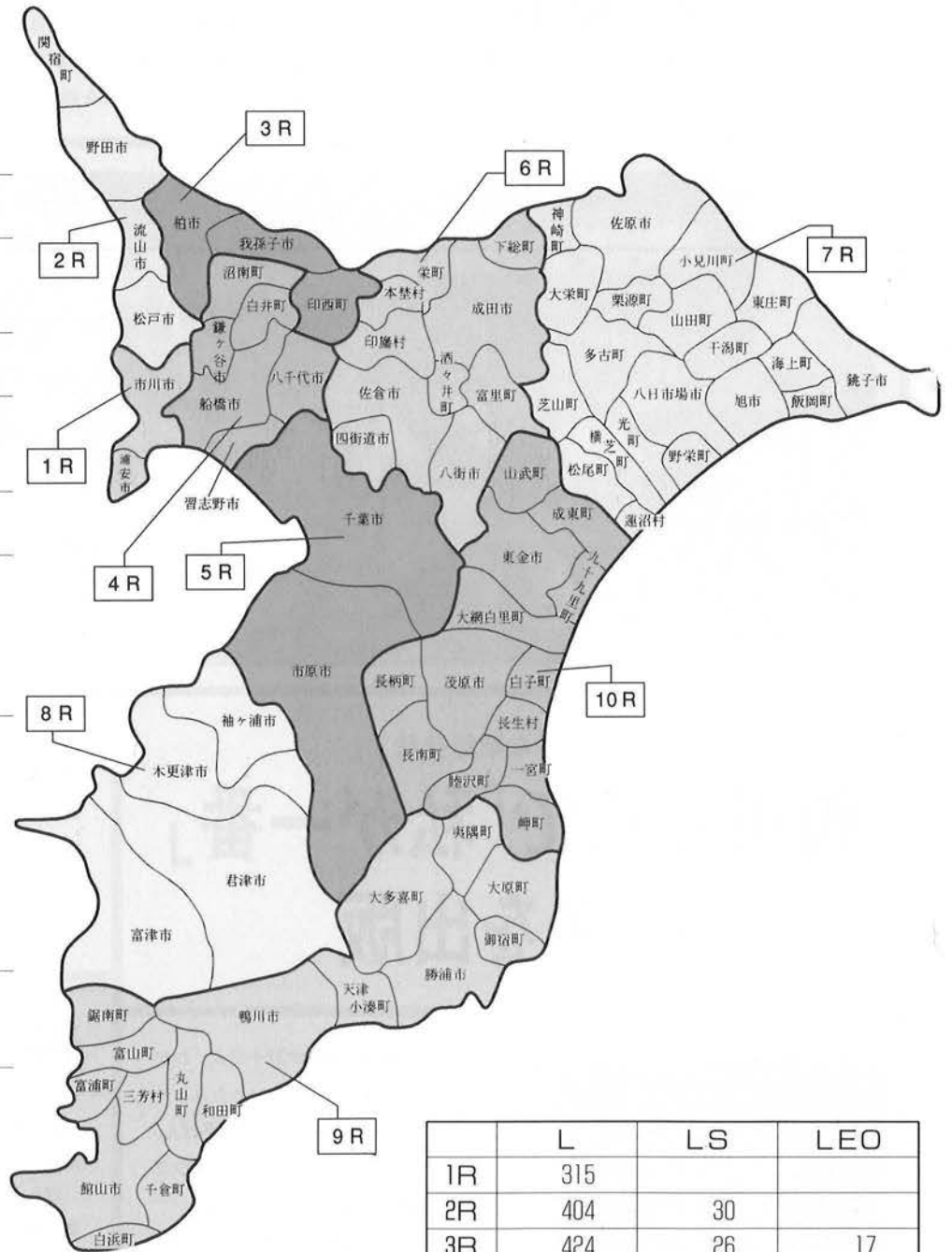
地区PR情報委員長L.椎名英夫



333-C地区リジョン分布図

(1994年7月以降)

- 1R 市川市、浦安市
- 2R 関宿町、野田市、流山市、松戸市
- 3R 柏市、我孫子市、印西市
- 4R 沼南町、白井町、八千代市
習志野市、鎌ヶ谷市、船橋市
- 5R 千葉市、市原市
- 6R 栄町、本埜村、印旛村
佐倉市、四街道市、下総町
成田市、酒々井町、富里町
八街市
- 7R 神崎町、大栄町、佐原市
小見川町、栗源町、東庄町
山田町、千潟町、多古町
芝山町、銚子市、海上町
飯岡町、旭市、八日市場市
野栄町、光町、横芝町
松尾町、蓮沼村
- 8R 袖ヶ浦市、木更津市、君津市
富津市
- 9R 夷隅町、大原町、御宿町
大多喜町、勝浦市、天津小湊町
鴨川市、和田町、丸山町
千倉町、鋸南町、富山町
三芳村、富浦町、館山市
白浜町
- 10R 山武町、成東町、東金市
九十九里町、大網白里町
白子町、茂原市、長柄町
長生村、長南町、一宮町
睦沢町、岬町



	L	LS	LEO
1R	315		
2R	404	30	
3R	424	26	17
4R	584	22	
5R	475	47	
6R	432		
7R	733	53	14
8R	319	84	26
9R	420	28	
10R	413		
合計	4 519	290	57

但し1994年6月末日現在 (単位人)



333-C地区ライオンズ憲章

われわれは、ライオンズクラブ草創の原点にたちかえり、
その崇高な精神を信奉し、
会員である誇りと自覚をもって、
ライオニズム永遠の発展に寄与するため、
会員の総意を結集し、ここに地区ライオンズ憲章を制定して、
その理想実現に邁進するものである。

1. 単位クラブの尊厳と自主性を尊重しよう。
2. 奉仕の根源は愛であることを確認し、心をこめて精進しよう。
3. 友情によって相互理解と強固な団結をはかろう。
4. 組織の簡素合理化と経費の節減につとめよう。
5. グッドスタンディングとは、積極的参加の意欲であることを理解し、指導力の開発にはげよう。

ライオンズクラブの目的

- 世界の人びととの間に相互理解の精神をつちかい発展させる。
- よい施政とよい公民の原則を高揚する。
- 地域社会の生活、文化、福祉および公德心の向上に積極的関心を示す。
- 友情、親善、相互理解のきずなによってクラブ間の融和をはかる。
- 一般に関心のあるすべての問題を自由に討論できる場を設ける。ただし、政党、宗派の問題をクラブ会員は討論してはならない。
- 奉仕の心を持つ人びとが個人の経済的報酬なしに社会に奉仕するようはげまし、また、商業、工業、専門職業、公共事業および個人事業の効率化をはかり、道徳的水準をさらに高める。

ライオンズ道徳綱領

- 職業に対する不断の努力が正しく賞賛されるように心がけ、自己の職業の尊さを確認すること。
- 事業を成功させて、適正な報酬や利益は受けるべきであるが、自己の立場を不当に利用したり、人に疑われる行いをして自尊心を傷つけてまでも利益や成功を求めないこと。
- 事業を遂行するにあたっては、他人の事業を妨害しないように心がけ、顧客や取引先に誠実であり、自己にも忠実であること。
- 他人に対する自己の立場や行いに疑いが生じたときは、世人の立場に立って解決にあたること。
- 真の友情は損得の上に築かれるものでなく、心と心のふれ合いによるものであることを自覚し、手段としてではなく目的として友情をもつこと。
- 国家および地域社会に対する公民の義務を忘れず、かわらぬ忠誠を言動にあらわし、すすんで時間と労力と資力をささげること。
- 不幸な人には同情を、弱い人には助力を、貧しい人には私材を惜しまないこと。
- 批評は謙虚に、賞賛は惜しみなく、建設を旨として破壊をさけること。



ちばぎん

暮らしのまん中に、 いつも「ちばぎん」。

ちばぎんグループは17の機関がつながって
幅広い活動を行っているネットワーク。
それぞれの専門機能を
結集した総合力があるからこそ
さまざまな側面から
たくさんの方の企業をサポートし
みなさまの暮らしをバックアップできるのです。
私たちの持つ価値ある情報
きめ細やかなサービス
いつでもどこでもお役に立てていただきたい
と考えています。



ちばぎんグループ

株式会社 千葉銀行

株式会社 ちばぎん総合研究所

ちばぎんJCBカード株式会社

ちばぎんDCカード株式会社

ちばぎんコンピューターサービス株式会社

ちばぎんキャピタル株式会社

ちばぎん投資顧問株式会社

ちばぎんファイナンス株式会社

チバインターナショナル株式会社

ちばぎん保証株式会社

ちばぎんファクター株式会社

ちばぎんビジネスサービス株式会社

ちばぎんキャッシュビジネス株式会社

ちばぎんスタッフサービス株式会社

株式会社 総武

東方興業株式会社

東方エージェンシー株式会社